平成２７年度

社会福祉法人　刀圭会

事　業　報　告　書

法人本部

ケアハウス　そうび苑

デイサービスセンター　そうび苑

ヘルパーステーション　向日葵

地域密着型介護老人福祉施設　にれの木

小規模多機能型居宅介護　にれの木

デイサービスセンター　にれの木

ショートスティ　にれの木

指定居宅介護支援事業所　はなみずき

地域密着型介護老人福祉施設　ななかまど

小規模多機能型居宅介護　ななかまど

ショートスティ　ななかまど

社会福祉法人　刀圭会
理事長　　長谷川　賢

［1］　平成２７年度　法人本部事業報告

平成２７年度法人本部の会務の運営及び主な実施事業について次のとおり報告します。

１．会務の運営

（1）　理事会の開催

第1回理事会　（通算第９５回）

１　日　　時　　平成２７年　5月２６日（火）
２　場　　所　　医療法人社団刀圭会　協立病院　１階　第一会議室
３　報告事項
- 平成２６年度　第４・四半期監事監査報告について

４　審議内容
- 平成２６年度　事業報告に関する件
- 平成２６年度　決算報告に関する件
- 平成２６年度　決算監事監査報告に関する件
- ヘルパーステーション向日葵　障害福祉サービスの実施に関する件
- 平成２７年度　第１次補正予算（案）に関する件
- 定款変更に関する件
- 帯広市第六期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成２８年度開設予定）に伴う
  ○地域密着型介護老人福祉施設（小規模特養）
  ○看護小規模多機能型居宅介護（看護小規模多機能）
  の公募申請に関する件

第2回理事会　（通算第９６回）

１　日　　時　　平成２７年8月２６日（水）
２　場　　所　　医療法人社団刀圭会　協立病院　１階　第一会議室
３　報告事項
- 平成２７年度　第１四半期（4～6月）監事監査報告について
- 帯広市第六期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成２８年度開設予定）に伴う
  ○地域密着型介護老人福祉施設（小規模特養）
  ○看護小規模多機能型居宅介護（看護小規模多機能）
  の公募申請経過について
- 「そうび苑」施設長　及び　理事の退任について

４　審議内容
- 評議員の任期満了に伴う理事会の同意に関する件
- 「そうび苑」施設長の任命に関する件
- 理事の補充に関する件

第3回理事会　（通算第９７回）

１　日　　時　　平成２７年　9月１９日（土）
２　場　　所　　社会福祉法人刀圭会　ななかまど　１階　ミーティングルーム
３　報告事項
- 無　し

４　審議内容
・理事長の互選に関する件
・理事長の職務の代理者選任に関する件
・新施設建設計画に伴う土地の等価交換伺いに関する件
・建設委員会の設置について

第4回理事会　（通算第９８回）
１　日　　時　　平成２７年１０月３０日（金）
２　場　　所　　医療法人社団刀圭会　協立病院　１階　第一会議室
３　報告事項
・評議員の辞任報告について
・平成２７年度社会福祉施設及び介護保険施設等の実地指導の結果について
・平成２７年度第２・四半期（７～９月）法人監事内部監査の実施結果について
・平成２７年度上期（４～９月）収支・事業報告について
・建設委員会報告について
４　審議内容
・評議員の欠員補充（案）について
・平成２７年度　第2次補正予算（案）について

第5回理事会　（通算第９９回）
１　日　　時　　平成２８年3月３０日（水）
２　場　　所　　医療法人社団刀圭会　協立病院　１階　第一会議室
３　報告事項
・平成２７年度　北海道監査及び社会福祉法人指導監査（帯広市）の実施結果について
・平成２７年度　第3四半期（10～12月）法人監事内部監査の実施結果について
・平成２７年度　下期（10～3月見込）収支事業報告について
・建設委員会報告について
４　審議内容
・給与規程の改正（案）について
・経理規程の改正（案）について
・平成２８年度　事業計画（案）について
・平成２８年度　資金収支予算（案）について
・平成２７年度　第3次補正予算（案）について

（2）　　監事監査実施状況
第1回　平成２７年　5月21日
・役員、会計経理、理事会、施設運営について

第2回　平成２７年　5月２１日
・平成２６年度決算監査

第3回　平成２７年　8月１８日
・定款、予算、会計経理、理事会、施設運営について

第4回　平成２７年１０月２６日
・役員、会計経理、理事会、施設運営、人事管理、運営指導について

第5回　平成２８年　3月１５日
・役員、予算、会計経理、理事会、施設運営について

（3）　評議員会の開催

第１回評議員会　（通算第７９回）
１　日　　時　　平成２７年　5月２６日（火）
２　場　　所　　医療法人社団刀圭会　協立病院　１階　第一会議室
３　報告事項
・平成２６年度　第４・四半期監事監査報告について
４　審議内容
・平成２６年度　事業報告に関する件
・平成２６年度　決算報告に関する件
・平成２６年度　決算監事監査報告に関する件
・ヘルパーステーション向日葵　障害福祉サービスの実施に関する件
・平成２７年度　第１次補正予算（案）に関する件
・定款変更に関する件
・帯広市第六期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成２８年度開設予定）に伴う
〇地域密着型介護老人福祉施設（小規模特養）
〇看護小規模多機能型居宅介護（看護小規模多機能）
の公募申請に関する件

第２回評議員会　（通算第８０回）
１　日　　時　　平成２７年９月１１日（金）
２　場　　所　　社会福祉法人刀圭会　ななかまど　１階　ミーティングルーム
３　報告事項
・平成２７年度　第１四半期（４～６月）監事監査報告について
・帯広市第六期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成２８年度開設予定）に伴う
〇地域密着型介護老人福祉施設（小規模特養）
〇看護小規模多機能型居宅介護（看護小規模多機能）
の公募申請経過について
・「そうび苑」施設長の交代　及び　理事の退任について
４　審議内容
・任期満了に伴う役員の選任に関する件
・新施設建設計画に伴う土地の等価交換伺いに関する件
・建設委員会の設置について

第３回評議員会　（通算第８１回）
１　日　　時　　平成２７年１０月３０日（金）
２　場　　所　　医療法人社団刀圭会　協立病院　１階　第一会議室

３　報告事項
- 評議員の辞任報告について
- 平成２７年度社会福祉施設及び介護保険施設等の実地指導の結果について
- 平成２７年度第２・四半期（7～9月）法人監事内部監査の実施結果について
- 平成２７年度上期（4～9月）収支・事業報告について
- 建設委員会報告について

４　審議内容
- 評議員の欠員補充（案）について
- 平成２７年度　第2次補正予算（案）について

第4回評議員会　（通算第８２回）
１　日　　時　　平成２８年3月３０日（水）
２　場　　所　　医療法人社団刀圭会　協立病院　１階　第一会議室
３　報告事項
- 平成２７年度　北海道監査及び社会福祉法人指導監査（帯広市）の実施結果について
- 平成２７年度　第3四半期（10～12月）法人監事内部監査の実施結果について
- 平成２７年度　下期（10～3月見込）収支事業報告について
- 建設委員会報告について

４　審議内容
- 給与規程の改正（案）について
- 経理規程の改正（案）について
- 平成２８年度　事業計画（案）について
- 平成２８年度　資金収支予算（案）について
- 平成２７年度　第3次補正予算（案）について

2．法人役職員の研修会、会議等の参加状況

1、　経営戦略セミナー
期　日：平成２７年　4月　6日
場　所：札幌市
主　催：北海道デイサービスセンター協議会
出席者：評議員（施設長・事務局長）　井田　浩司

2、　第1回十勝老人福祉施設経営者懇談会研修会・総会
期　日：平成２７年　4月２４日
場　所：帯広市
主　催：十勝老人福祉施設経営者懇談会
出席者：理事長　長谷川　賢

3、　ＳＳＫセミナー介護報酬改定のインパクトと介護事業経営の新戦略
期　日：平成２７年　5月１５～１７日
場　所：東京都

主　催：㈱新社会システム総合研究所
出席者：事務局次長（施設長）　木村　大志

4、　北海道社会福祉法人経営青年会第１回運営委員会
期　日：平成２７年　６月　２日
場　所：札幌市
主　催：北海道社会福祉法人経営青年会
出席者：事務局次長（施設長）　木村　大志

5、　北海道温泉協会通常総会並びに温泉セミナー
期　日：平成２７年　６月１６日
場　所：札幌市
主　催：北海道温泉協会
出席者：評議員（施設長・事務局長）　井田　浩司

6、　社会福祉法人経営セミナー北海道社会福祉法人経営者協議会・第１回総会
期　日：平成２７年　６月２８日～２９日
場　所：札幌市
主　催：北海道社会福祉法人経営者協議会
出席者：理事長　長谷川　賢

7、　全道老人福祉施設研究大会・総会
期　日：平成２７年　７月９日～１０日
場　所：札幌市
主　催：北海道老人福祉施設協議会
出席者：評議員（施設長・事務局長）　井田　浩司

8、　北海道デイサービスセンター研究協議会
期　日：平成２７年　７月１５日～１６日
場　所：札幌市
主　催：北海道デイサービスセンター協議会
出席者：評議員（施設長・事務局長）　井田　浩司

9、　第３５回北海道老人福祉施設研究発表会
期　日：平成２７年　８月２０日～２１日
場　所：札幌市
主　催：北海道老人福祉施設協議会
出席者：事務局次長（施設長）　木村　大志
　　評議員（副施設長）　長谷川　香

１０、　社会法務とマイナンバー制度の実務対応
期　日：平成２７年　９月１６日
場　所：帯広市
主　催：帯広地方法人会

出席者：評議員・事務局長（施設長）　木村　大志

１１、　人材交流事業事務担当者会議
期　日：平成２７年　９月２４日
場　所：帯広市
主　催：十勝社会福祉法人経営者懇談会
出席者：評議員・事務局長（施設長）　木村　大志
評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

１２、　北海道ブロック職員研修会
期　日：平成２７年　９月２９日～１０月　１日
場　所：札幌市
主　催：全国軽費老人ホーム協議会
出席者：評議員・事務局長（施設長）　木村　大志
評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

１３、　軽費老人ホーム・ケアハウス研修会
期　日：平成２７年１０月１５～１６日
場　所：帯広市
主　催：北海道老人福祉施設協議会
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

１４、　第2回相談員部会ネットワーキング
期　日：平成２７年１０月１６日
場　所：帯広市
主　催：十勝老人福祉施設協議会
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

１５、　北海道ブロックカントリーミーティングin札幌
期　日：平成２７年１０月２２日～２３日
場　所：札幌市
主　催：北海道老人福祉施設協議会
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

１６、　北海道社会福祉法人経営青年会職場運営管理講座・第１回総会
期　日：平成２７年１０月２３日
場　所：札幌市
主　催：北海道社会福祉法人経営青年会
出席者：理事長　長谷川　賢
評議員・事務局長（施設長）　木村　大志
評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

17、 帯広市認知症フォーラム
期 日：平成27年10月24日
場 所：帯広市
主 催：帯広市高齢者福祉課
出席者：評議員・事務局次長（施設長） 前川 雅志

18、 感染症予防研修会
期 日：平成27年10月30日
場 所：帯広市
主 催：帯広保健所
出席者：評議員・事務局次長（施設長） 前川 雅志

19、 雇用管理責任者講習
期 日：平成27年11月10日
場 所：帯広市
主 催：十勝老人福祉施設協議会
出席者：理事・評議員・法人本部長（施設長） 井田 浩司
評議員・事務局長（施設長） 木村 大志
評議員・事務局次長（施設長） 前川 雅志

20、 公正採用選考人権啓発推進員研修会
期 日：平成27年11月11日
場 所：帯広市
主 催：帯広公共職業安定所
出席者：理事・評議員・法人本部長（施設長） 井田 浩司
評議員・事務局長（施設長） 木村 大志
評議員・事務局次長（施設長） 前川 雅志

21、 社会福祉法人・社会福祉施設経理取扱実務研修会
期 日：平成27年11月19日～20日
場 所：札幌市
主 催：北海道社会福祉法人経営者協議会
出席者：理事・評議員・法人本部長（施設長） 井田 浩司
評議員・事務局次長（施設長） 前川 雅志

22、 ボランティアキャラバン
期 日：平成27年11月28日
場 所：帯広市
主 催：十勝老人福祉施設協議会
出席者：評議員・事務局次長（施設長） 前川 雅志

23、 法人役員・施設長専門研修
期 日：平成27年12月 6～ 7日
場 所：帯広市

主　催：北海道社会福祉協議会
出席者：理事・評議員・法人本部長（施設長）　井田　浩司

24、　第1回音更町介護保険サービス事業所連絡協議会研修
期　日：平成27年12月　9～10日
場　所：音更町
主　催：音更町介護保険サービス事業所連絡協議会研修
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

25、　帯広市徘徊高齢者等SOSネットワーク連絡会議
期　日：平成27年12月17日
場　所：帯広市
主　催：帯広市保健福祉部
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

26、　新しい介護予防、日常生活支援総合事業の開始に伴う事業説明の会
期　日：平成27年12月14日
場　所：芽室町
主　催：芽室町保健福祉課
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

27、　北海道社会福祉法人経営青年会　第2回運営委員会
期　日：平成28年　1月12日
場　所：札幌市
主　催：北海道社会福祉法人経営青年会
出席者：理事長　長谷川　賢
　　評議員・事務局長（施設長）　木村　大志

28、　雇用管理改善セミナー
期　日：平成28年　1月20日
場　所：帯広市
主　催：介護労働安定センター北海道支部
出席者：評議員・事務局長（施設長）　木村　大志
　　評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

29、　ニッケイ経営セミナー
期　日：平成28年　2月　3日
場　所：帯広市
主　催：介護労働安定センター北海道支部
出席者：理事・評議員・法人本部長（施設長）　井田　浩司
　　評議員・事務局長（施設長）　木村　大志
　　評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

30、　北海道社会福祉法人経営実務セミナー　第2回総会

期　日：平成２８年　２月１７～１８日
場　所：札幌市
主　催：北海道社会福祉法人経営者協議会
出席者：理事長　長谷川　賢

３１、　北海道デイサービスセンター施設長研修　第２回総会
期　日：平成２８年　２月１８～１９日
場　所：札幌市
主　催：北海道デイサービスセンター協議会
出席者：理事・評議員・法人本部長（施設長）　井田　浩司
　　評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

３２、　軽費老人ホーム・ケアハウスサミットin北海道
期　日：平成２８年　２月２３日
場　所：札幌市
主　催：全国老人福祉施設協議会
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

３３、　高齢者虐待防止に関する研修会
期　日：平成２８年　２月２５日
場　所：帯広市
主　催：帯広市高齢者福祉課
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

３４、　温泉発電導入促進勉強会結果報告会
期　日：平成２８年　２月２６日
場　所：札幌市
主　催：北海道温泉協会
出席者：理事・評議員・法人本部長（施設長）　井田　浩司

３５、　一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会　北海道ブロック総会・講演会
期　日：平成２８年　３月　４日
場　所：札幌市
主　催：全国軽費老人ホーム協議会
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

３６、　老人福祉施設管理者スキルアップ研修
期　日：平成２８年　３月１６～１７日
場　所：札幌市
主　催：北海道老人福祉施設協議会
出席者：理事・評議員・法人本部長（施設長）　井田　浩司

３７、　十勝社会福祉法人経営者懇談会　人材交流事業報告会
期　日：平成２８年　３月１８日

場　所：帯広市
主　催：十勝社会福祉法人経営者懇談会
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

38、　地域包括ケア推進セミナー
期　日：平成28年　3月19日
場　所：帯広市
主　催：十勝老人福祉施設協議会
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

39、　北海道社会福祉法人経営青年会　経営管理講座
期　日：平成28年　3月28～29日
場　所：札幌市
主　催：北海道社会福祉法人経営青年会
出席者：評議員・事務局長（施設長）　木村　大志

40、　平成27年度定期総会
期　日：平成28年　3月29日
場　所：帯広市
主　催：十勝老人福祉施設協議会
出席者：評議員・事務局次長（施設長）　前川　雅志

3. 寄贈状況

① 寄附金
平成27年　4月　3日　　㈱ファルマコムどんぐり調剤薬局
代表取締役会長　黒田　宗幸　様
100,000円（社会福祉法人刀圭会の運営資金として）

② 寄附物品　なし

［2］　平成27年度　ケアハウスそうび苑事業報告

1、重点実施項目

（1）地域貢献の視点については、報友町内会を始め地域の方にそうび苑祭や足湯のご案内を行い、足湯は1,002人の方にご利用して頂けた。又新しい取り組みとして、皆様が気軽に通える施設を目指し、期間限定の喫茶店を開き無料でコーヒー等の提供を行った。今後も多くの方にケアハウスを知って頂くと共にご家族様、地域の皆様の相談窓口の一つとなれる様継続して行きたい。地域のゴミ拾いは月二回ペースで（冬期を除く）入居者様と共に行うことが出来た。地域の一員としての自覚を持ち今後も継続して行きたい。

（2）財務の視点については、温泉を循環式に変更した事により温泉水の使用量が昨年度と比較し一割程度となり、大幅な削減が出来た。又デマンド装置設置により、職員間で電気の使用量を意識するようになり小まめに節電することが出来た。

（3）利用者の視点については、入居者様ご家族様との信頼関係を大事にする事を心掛け 1）ご家族様と会話する時間を多く持つ、2）機関紙をご家族様に送付し定期的に様子をお伝えする等行い一層、交流を密にすることが出来た。食事はマンネリ化しない様新しいメニューを考案、提供し入居者様の楽しみの一つとなる様心掛けた。入居者様の自立促進の視点ではふまねっと運動、誕生会ゲーム、干支のちぎり絵等では入居者様が楽しみながら参加し自ら準備や進行方法のアイディアを出すなど自立促進が進んできている。

（4）業務のプロセスの視点については、週末の様子等の連絡が途切れないようメール等で全員に周知し、共通の認識を持つことが出来た。又事業所内各部署との連絡を細やかにすることで情報の共有が出来た。

（5）学習と成長の視点では、外部研修の一環として　あさひ苑との人材交流や、軽費老人ホーム等の研修に参加し今後当施設で活かせる業務内容を吸収することが出来た。次年度に向け計画に取り入れて行きたい。内部研修では、年々充実してきている委員会の研修に意欲的に参加し、知識を習得することが出来た。

（6）人材と変革の視点については、毎月の月例会に倫理綱領を職員全員で唱和し、統一した意識を持って業務に取り組むことが出来た。毎月行われているケース検討では、介護職員の他、事務職員も参加し、より良いサービス提供に繋ぐことが出来た。

2、入居者の状況

（1）人数・年齢　　平成28年3月31日現在

性　別	人　数	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男	6 名	91 歳	69 歳	82.8 歳
女	44 名	94 歳	76 歳	85.5 歳
合　計	50 名			84.1 歳

（2）年齢層別人数　　平成28年3月31日現在

年齢／性別	男	女	計	構成比率
60～64	0 名	0 名	0 名	0 %
65～69	1 名	0 名	1 名	2 %
70～74	0 名	0 名	0 名	0 %
75～79	1 名	4 名	5 名	10 %
80～84	0 名	16 名	16 名	32 %
85～89	2 名	15 名	17 名	34 %
90～94	2 名	9 名	11 名	22 %
95～99	0 名	0 名	0 名	0 %
100～	0 名	0 名	0 名	0 %
合　計	6 名	44 名	50 名	100 %

（3）入居期間人数　　平成28年3月31日現在

期間／性別	男	女	計	構成比率
1年未満	0 名	4 名	4 名	8 %
1 ～ 2 年	1 名	5 名	6 名	12 %
2 ～ 3 年	0 名	4 名	4 名	8 %
3 ～ 4 年	2 名	5 名	7 名	14 %
4 ～ 5 年	0 名	4 名	4 名	8 %
5 ～ 6 年	1 名	4 名	5 名	10 %
6 ～ 7 年	0 名	2 名	2 名	4 %
7 ～ 8 年	1 名	1 名	2 名	4 %
8 ～ 9 年	1 名	2 名	3 名	6 %
9 ～ 10 年	0 名	1 名	1 名	2 %
10 ～ 11 年	0 名	1 名	1 名	2 %
11年以上	0 名	11 名	11 名	22 %
合　計	6 名	44 名	50 名	100 %
平均入居期間	5年1ヶ月	6年5ヶ月	6年3ヶ月	

（4）出身地（前住所）別人数　　平成28年3月31日現在

区分	十勝管内						道内			
	帯広市	音更町	芽室町	士幌町	陸別町	幕別町	札幌市	江別市	旭川市	当麻町
男	4 名	0 名	1 名	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名	0 名	0 名
女	34 名	2 名	0 名	1 名	1 名	2 名	1 名	1 名	1 名	1 名
合計	38 名	2 名	1 名	1 名	1 名	2 名	2 名	1 名	1 名	1 名

（5）入居・退居の状況

①年度内入居者の人数

月	26年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	27年度
男	0 名	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 名
女	4 名	1	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	5 名
計	4 名	2	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	6 名

※入居者の内訳
・道営住宅1　・自宅3　・家族宅2

②年度内退居者の人数

月	26年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	27年度
男	0 名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 名
女	6 名	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	4 名
計	6 名	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	4 名

※退居者の内訳
・協立病院3　・ななかまど1

（6）入院の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3 名
女	3	3	4	4	3	3	4	4	3	2	2	3	38 名
計	3	3	4	4	3	3	4	5	4	2	3	3	41 名

※各月初日から末日までの累計による

入院先		疾患名	
協立病院	13 名	腹痛検査	1 名
厚生病院	2 名	脳梗塞	2 名
北斗病院	1 名	発熱	1 名
原田眼科	1 名	発熱、貧血	1 名
		転倒による検査入院	1 名
厚生→十勝リハビリ	1 名	インスリン調整	1 名
厚生→協立	1 名	大腸検査	1 名
		腰痛	2 名
		脳梗塞の疑いにて検査入院	1 名
		腰椎圧迫骨折	1 名
		大腸ポリープ抜去検査	1 名
		食欲不振	1 名
		仙骨骨折	1 名
		皮膚がん	1 名
		白内障	1 名
		大転子部骨折	2 名
			名
			名
合計	19 名	合計	19 名

※入院期間
総日数　667日
1人平均　35日
最長　163日
最短　2日

（7）在宅サービスの利用状況　　平成28年3月31日現在

性別／種類	通所介護	訪問介護	訪問看護	介護タクシー	小規模多機能	合　計
男	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
女	17 名	20 名	5 名	1 名	5 名	48 名
合　計	17 名	20 名	5 名	1 名	5 名	48 名

（8）要介護・要支援認定の状況　　平成28年3月31日現在

性別／介護度	申請者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3
男	2 名	1 名	1 名	0 名	0 名	0 名
女	29 名	13 名	9 名	5 名	1 名	1 名
合　計	31 名	14 名	10 名	5 名	1 名	1 名

（9）事務費（サービスの提供に要する費用）負担区分の状況　　平成28年3月31日現在

区分	対　象　収　入　額	事　務　費	男	女	計	構成比率
1	～1,500,000　円	10,000 円	4 名	23 名	27 名	54 %
2	1,500,001～1,600,000　円	13,000 円	0 名	3 名	3 名	6 %
3	1,600,001～1,700,000　円	16,000 円	0 名	3 名	3 名	6 %
4	1,700,001～1,800,000　円	19,000 円	0 名	2 名	2 名	4 %
5	1,800,001～1,900,000　円	22,000 円	0 名	4 名	4 名	8 %
6	1,900,001～2,000,000　円	25,000 円	1 名	1 名	2 名	4 %
7	2,000,001～2,100,000　円	30,000 円	1 名	2 名	3 名	6 %
8	2,100,001～2,200,000　円	35,000 円	0 名	1 名	1 名	2 %
9	2,200,001～2,300,000　円	40,000 円	0 名	1 名	1 名	2 %
10	2,300,001～2,400,000　円	45,000 円	0 名	2 名	2 名	4 %
11	2,400,001～2,500,000　円	50,000 円	0 名	0 名	0 名	0 %
12	2,500,001～2,600,000　円	57,000 円	0 名	0 名	0 名	0 %
13	2,600,001～2,700,000　円	64,000 円	0 名	1 名	1 名	2 %
14	2,700,001～2,800,000　円	67,300 円	0 名	0 名	0 名	0 %
15	2,800,001～2,900,000　円	67,300 円	0 名	0 名	0 名	0 %
16	2,900,001～3,000,000　円	67,300 円	0 名	0 名	0 名	0 %
17	3,000,001～3,100,000　円	67,300 円	0 名	0 名	0 名	0 %
18	3,100,001～　円	67,300 円	0 名	1 名	1 名	2 %
合　計			6 名	44 名	50 名	100 %

※1区分男1女1計2名は夫婦減免あり→事務費7,000円

3．寄贈状況

①寄附金　　なし

②寄附物品　なし

3. 実施事業（行事等）

日　付	行　事　名　等	内　容　・　場　所　等	入居者参加人数
4月	平成２７年度親睦会総会		
	北海道知事、北海道議会議員不在者投票		44名投票
	帯広美術館観覧	「バルビゾン　絵画と写真」展	5名
	帯広市議会議員不在者投票		４３名投票
5月	足湯オープン		
	花見ドライブ	音更	
	春の大掃除週間・点検		
	春の苑周辺環境整備		17名
	水晶堂様出張サービス		5名
6月	北明自然観賞会		17名
	帯広美術館観覧	「みんなのための　はじめてアート」	7名
	日帰り旅行	鹿追方面	29名
7月	避難訓練	夜間想定	44名
	北明自然観賞会		21名
	北明リハビリ農園野外パーティー		33名
	第43回理事長杯ＰＧ大会		7名
8月	北明自然観賞会		11名
	そうび苑盆踊り大会		
	帯広美術館観覧	「草月流秘蔵コレクション」展	6名
10月	結核検診・健康診断	協立病院	
	大掃除週間～点検		
	北明自然観賞会		14名
	火災報知器点検		
	秋の苑周辺環境整備		14名
11月	帯広菊祭り観覧		11名
	インフルエンザ予防接種		
	第14回そうび苑祭		
12月	帯広市第一中学校合唱部コーラス鑑賞		
	年忘れ会		
	ノルドエコーコーラス鑑賞		20名
	江陵高校吹奏楽部コンサート鑑賞	アメニティ	10名
1月	新年交礼会		
	ゆず湯実施		
	講演会「医療・福祉コトハジメ」	講師：嶺野　侑氏	
	記念写真撮影		
	プチ新年会		
2月	節分豆まき		
	帯広氷祭り見学		15名
	帯広美術館観覧・児童会館見学	「思考するアートコトバノカタチ」	8名
3月	嗜好調査		
	ひな祭り		
	お食事会	帯広市場食堂ふじ膳	36名
	喫茶店開設		

※ ラジオ体操～毎日実施
クラブ活動～大正琴教室　（毎週火曜日　４名）
ＰＧ同好会　（夏季シーズン月２回　会員8名）
カラオケ同好会（毎週日曜日　８～１０名　　２８年３月にて終了）
絵手紙同好会　（毎月第２金曜日　２名）
麻雀同好会　（定例会毎週日曜日　１０名）

誕生会　（毎月）
健康チェック（毎月）
映画会　（毎月１回）
いきいき体操　（4月～6月　11月～3月　月１～2回）
ふまねっと運動　（毎月１～２回）
親睦会役員会　（毎月１回）
冷蔵庫消毒３か月に一度
地域貢献ゴミ拾い　（５月～１０月　月２回）

［3］　平成２７年度デイサービスセンターそうび苑事業報告

1、重点実施項目

（1）地域貢献の視点については、帯広市委託事業である介護予防二次予防事業を４会場で計９６回実施して参加者様の身体機能の向上に努めることが出来た。また、地域交流として９月に西陵中学校の吹奏楽部の皆さんによる演奏会や１０月に第一中学校の生徒との交流で職場体験を行ない、職員、利用者様交流を深めることが出来た。

（2）財務の視点については、９月まで１日平均21.2名と低迷していたが、１０月から地域包括ケア会議の協力のおかげもあり、１０月以降は23.0名と利用者を確保することが出来たが目標の数値には届かなかった。昨年は個別機能訓練の算定者が登録の5割弱に対して今年度は7割を超える参加希望とサービス提供体制強化加算が一人6単位から18単位へ変更したことで収益を上げることが出来た。

（3）利用者の視点については、利用者個々の処遇に対し、利用者はもとより家族との情報共有を密にするため、連絡ノートを活用すると共に送迎時に家族からの情報収集や職員からの情報提供を確実に実施できたことにより、利用者および家族からの信用が獲得できた。
また、利用者アンケートを実施して利用者、家族のニーズを把握してよりよいサービスに繋げることができた。通所時のレクリエーションの充実については、集団でのレクリエーションの他に利用者が自発的に楽しめるよう各個人の好みを把握することで、個人またはグループ単位でアクティビティ・ゲーム等を行うことができた。

（4）業務のプロセスの視点については、通所者の人数に応じて柔軟な業務の配分を実施し、利用者との関わりを持つ時間を増やしながらも、効率的に業務の遂行を図ることができた。

（5）学習と成長の視点については、良質なるサービスを提供するため、介護専門職としてサービスの質の向上を目指していくために施設内外の研修等に積極的に参加して、研修報告等を行い、職員同士意見を交換してよりよい質の高いサービスが提供できるよう施設全体で取り組んでいくことができた。

（6）人材と変革の視点については、そうび苑倫理綱領を基礎とし、日々の申し送りに加え週１回のケース検討会議で画一的なサービスの提供に留まらず、個々のニーズに適用できるよう議論を交わす取り組みを行った結果、全職員が自発的な意見の提案を行う環境を作り上げることができた。

2、利用者の状況

（1）通所介護事業利用者の状況　　平成２８年３月３１日現在

月	利用稼働日	利用延人数	利用実人数	1日平均利用者数	介護度別利用者数（実人数）						
					支援１	支援２	介護１	介護２	介護３	介護４	介護５
4月	26	565	87	21.7	15	27	31	5	4	3	1
5月	26	551	87	21.2	14	27	28	8	3	3	0
6月	26	565	88	21.7	13	27	30	10	3	3	0
7月	27	579	86	21.4	14	25	33	9	3	2	0
8月	26	552	85	21.2	13	24	32	11	3	2	0
9月	26	531	87	20.4	13	27	31	11	3	2	0
１０月	27	596	87	22.1	15	27	28	12	3	2	0
１１月	25	548	81	21.9	14	26	28	11	2	2	0
１２月	26	584	83	22.5	16	25	28	11	2	1	0
1月	24	559	91	23.3	17	26	29	13	3	1	0
2月	25	596	92	23.8	18	25	32	11	3	1	0
3月	27	657	90	24.3	17	26	31	13	3	2	0
合計	311	6,883	1,044		179	312	361	125	35	24	1
月平均	25.9	573.6	87.0	22.1	14.9	26.0	30.1	10.4	2.9	2.0	0.1
介護度別構成比率					17.3%	30.1%	34.8%	12.1%	3.4%	2.3%	0.1%

※介護度別利用者数（実人数）は、月の途中で介護度の変更がある利用者がいるため、合計数が利用実人数と一致せず。

（A）曜日別利用者人数　　平成28年3月31日現在

区分		曜日別利用者人数						合計
		月	火	水	木	金	土	
男		5	4	1	6	3	1	20
女		27	28	28	25	24	25	157
計		32	32	29	31	27	26	177
要介護度別内訳	支1	5	1	5	4	0	3	18
	支2	6	10	6	6	8	9	45
	介1	14	11	10	10	13	7	65
	介2	5	9	7	8	5	6	40
	介3	2	1	1	1	1	1	7
	介4	0	0	0	2	0	0	2
	介5	0	0	0	0	0	0	0
計		32	32	29	31	27	26	177

※3月末登録者のうち複数回利用者を含む

（B）年齢データ　　平成28年3月31日現在

区分	利用人数	年齢別利用者人数								平均年齢
		～64	65～	70～	75～	80～	85～	90～	95～	
男	11	1	0	0	5	1	3	1	0	80.5
女	79	0	1	0	8	19	24	21	6	87.8
計	90	1	1	0	13	20	27	22	6	86.0
比率%	100.0%	1.1%	1.1%	0.0%	14.4%	22.2%	30.0%	24.4%	3.2%	

（C）地区別利用者数　　平成28年3月31日現在

区分	西南	西北	東	柏林台	南町	白樺	幕別町	合計
男	6	3	0	2	0	0	0	11
女	19	53	6	2	1	1	1	79
計	25	53	6	4	1	1	1	90
比率%	27.8%	58.9%	6.7%	4.4%	1.1%	1.1%	1.1%	100.0%

（D）利用解除の理由と人数　　平成28年3月31日現在

区分	男	女	計
本人死亡のため	1	5	6
施設入所（特養・老健・GH等）のため	1	11	12
他のデイサービス・デイケア等に変更のため	2	1	3
引越しのため	0	0	0
病院入院・体調不調のため	0	9	9
その他（本人の都合など）	0	1	1
計	4	27	31

（2）介護二次予防事業利用者の状況　　平成２８年３月３１日現在

月	利用開催数	利用延人数	利用実人数	１回平均利用者数	備考
4月	—	—	—	—	—
5月	3	30	11	10.0	
6月	9	91	24	10.1	
7月	9	86	24	9.6	
8月	11	106	35	9.6	
9月	8	84	24	10.5	
１０月	8	90	27	11.3	
１１月	12	120	34	10.0	
１２月	12	141	42	11.8	
1月	12	133	42	11.1	
2月	8	78	26	9.8	
3月	4	51	19	12.8	
合計	96	1,010	308		
月平均	8.7	91.8	25.7	10.6	

（A）会場別利用者数　　平成２８年３月３１日現在

区分	北栄福祉センター			北親福祉センター		栄福祉センター		啓親福祉センター			合計
	5月～8月	１０月～1月	合計	6月～9月	合計	１１月～2月	合計	8月～１１月	１２月～3月	合計	
男	1	2	3	3	3	1	1	1	1	2	9
女	10	14	24	10	10	6	6	10	18	28	68
計	11	16	27	13	13	7	7	11	19	30	77

（B）年齢データ　　平成２８年３月３１日現在

区　分	利用人数	年齢別利用者人数						平均年齢
		65～	70～	75～	80～	85～	90～	
男	5	1	2	1	0	1	0	75.4
女	30	3	1	13	11	2	0	77.2
計	35	4	3	14	11	3	0	76.3
比率％	100.0%	11.4%	8.6%	40.0%	31.4%	8.6%	0.0%	

＊継続して参加している人もいるので会場別利用者数と一致せず。

（C）地区別利用者数　　平成２８年３月３１日現在

区　分	西北	西南	合計
男	5	0	5
女	33	9	42
計	38	9	47

＊継続して参加している人もいるので会場別利用者数と一致せず。

（D）利用中止の理由と人数　　平成２８年３月３１日現在

区　分	男	女	計
介護認定申請のため	0	2	2
計	0	2	2

（3）在宅重度身体障害者デイサービス事業利用者の状況 平成２８年３月３１日現在

月	利用稼働日	利用延人数	利用実人数	1日平均利用者数	新規登録者	廃止者
4月	26	12	3	0.46	0	0
5月	26	12	3	0.46	0	0
6月	26	14	3	0.54	0	0
7月	27	11	3	0.41	0	0
8月	26	12	3	0.46	0	0
9月	26	13	3	0.50	0	0
10月	27	11	3	0.41	0	1
11月	25	13	2	0.52	0	0
12月	26	12	2	0.46	1	0
1月	24	16	3	0.67	0	0
2月	25	13	3	0.52	0	0
3月	27	13	3	0.48	0	0
合計	311	152	34		1	1
月平均	25.9	12.7	2.8	0.49	0.1	0.1

（A）曜日別利用者人数 平成２８年３月３１日現在

区分	曜日別利用者人数						
	月	火	水	木	金	土	合計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	1	1	0	0	1	1	4
計	1	1	0	0	1	1	4

※3月末登録者のうち複数回利用者を含む

（B）年齢データ 平成２８年３月３１日現在

区分	利用人数	年齢別利用者人数							平均年齢
		0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
女	3	0	0	0	0	1	1	1	55.0
計	3	0	0	0	0	1	1	1	55.0
比率％	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	

（C）地区別利用者数 平成２８年３月３１日現在

区分	西南	幕別町	合計
男	0	0	0
女	2	1	3
計	2	1	3

（D）利用解除の理由と人数 平成２８年３月３１日現在

区分	男	女	計
本人の都合	0	1	1
計	0	1	1

3．寄贈状況

①寄附金　　なし

②寄附物品　　なし

4．実施事業（行事）

4月		10月	
4月1日～4月4日	スマートボール大会	10月5日～10月10日	スマートボール大会
4月6日～4月11日	フリータイム	10月12日～10月17日	体重測定・14日(第1中学職場体験)
4月13日～4月18日	誕生日週間	10月19日～10月24日	お誕生週間・ボーリングゲーム
4月20日～4月25日	体重測定・サッカーゲーム	10月26日～10月31日	体重測定・しりとりゲーム
4月27日～5月2日	魚釣りゲーム・4/29～5/2（花見）		31日（菊まつり見学）
5月		11月	
5月4日～5月9日	4～5日（花見）6～9日（フリータイム）	11月2日～11月7日	2～4（菊まつり見学）5～7（フリータイム）
5月11日～5月16日	フリータイム	11月9日～11月14日	スロットゲーム、15日（そうび苑祭）
5月18日～5月23日	誕生日週間	11月16日～11月21日	そうび苑祭ビデオ鑑賞
5月25日～5月30日	体重測定・輪投げゲーム	11月23日～11月28日	お誕生週間・体重測定
6月		12月	
6月1日～6月6日	フリータイム	11月30日～12月5日	クリスマスリース作成
6月8日～6月13日	ゴルフゲーム	12月7日～12月12日	いきいき体操
6月15日～6月20日	お誕生週間	12月14日～12月19日	お誕生週間
6月22日～6月27日	体重測定・フリータイム	12月21日～12月26日	体重測定・並び替えクイズ
		12月28日～12月30日	フリータイム
7月		1月	
6月29日～7月4日	スマートボールゲーム	1月4日～1月9日	フリータイム（1/4・新年恒例会）
7月6日～7月11日	フリータイム	1月11日～1月16日	物送りゲーム
7月13日～7月18日	お買い物ツアー（ダイソー）	1月18日～1月23日	お誕生週間・サッカーボーリング
7月20日～7月25日	お誕生週間・フリータイム	1月25日～1月30日	体重測定・いきいき体操
7月27日～8月1日	体重測定・七夕短冊飾り		
8月		2月	
8月3日～8月8日	フリータイム	2月1日～2月6日	豆まきホイホイ鬼退治
8月10日～8月15日	お誕生週間・フリータイム	2月8日～2月13日	音楽レクリエーション
8月17日～8月22日	勝毎花火大会ビデオ鑑賞	2月15日～2月20日	お誕生週間・スマートボールゲーム
8月24日～8月29日	体重測定・フリータイム	2月22日～2月27日	体重測定・輪投げ大会
9月		3月	
8月31日～9月5日	ボーリングゲーム	2月29日～3月5日	フリータイム
9月7日～9月12日	スロットゲーム	3月7日～3月12日	いきいき体操
9月14日～9月19日	お誕生週間・そうび苑祭作品制作	3月14日～3月19日	お誕生週間・フリータイム
9月21日～9月26日	体重測定・24日（西陵中学演奏会）	3月21日～3月26日	体重測定・音楽レクリエーション
9月28日～10月3日	音楽レクリエーション	3月28日～4月2日	ゴルフゲーム

［4］ 平成２７年度　　ヘルパーステーション向日葵

事業報告書

1、地域貢献の視点

・SOS ネットワークの情報を受け、１件ではあるが発見へと繋げることが出来た。

・熊本震災が発生したことを受け、連絡網の確認、情報収集の仕方等、改めて確認を行い、大規模災害発生時、早い対応が出来るよう再度準備を整えた。

2、財務の視点

・毎月の収支から人件費率を月平均 67%に抑えることが出来た。

・障害のサービスを 8 月にスタートした。

1 時間当たりの単価が介護保険より割高で、介護保険対応に比べるとひと月平均単価は約 1.5 倍である。支援事業所回りを行っているが、今後は太いパイプを持てるような事業所との連携を図っていきたいと考える。H27 年度は介護併用の利用者を含め 5 名の利用にとどまっている。

3、利用者の視点

・急遽の対応で誰でも行ける状況を作っているが、人が変わってもサービス自体が変わらなく、安定したサービスを提供できるように心掛け、ヘルパー間の連携を行っていることでクレームはほとんどない。

・利用者とのなにげない会話から日常の不便さ、ニーズをくみ取りケアマネに繋げより良い生活が送られるよう、情報提供と情報収集を行っているので、重篤化させることなく対応が出来たと思う。

4、業務のプロセスの視点

・「ほう、れん、そう」の強化は事業所内だけではなく、利用者の情報を一番持っている私たちから居宅支援事業所や他のサービス事業所とも、情報を共有するべく行っている。

また、常勤と登録の隔たりなく連携を取ることで、安定したサービスを行い、利用者とその家族、各サービス事業所から当事業所の評価に繋げていくような動きを心掛けている。

・利用者の状況を確認し自立に向けた支援とはなにかを念頭に置き、サービス内容も変化させていくべきものととらえ、対応を行っている。

・H27.8 月に障害サービスを開始した。（3 月末で 4 名の利用者である）

5、学習と成長の視点

・年間１２回の研修を計画し、医療・にれの木などの研修にも参加させてもらいながら１１回行うことが出来た。また毎月の研修は特定事業所加算を取るための建前から始めたが、自分たちの知識の蓄えとなるよう、必要な情報をどんどん吸収し、事業所としてのスキルアップがはかられていると感じる。

6、人材と変革の視点

・刀圭会全体の力を借り、またこちらからも車輪の１つとなり、安心したサービス提供に努める努力はこれからも意識し対応を行っていくことである。そのため自分の役割は何かをしっかりと把握し、日々努めることで事業所の活気もわくと思っている。幸い、今いるメンバーは共に当事業所を守っていける信頼の厚い関係づくりが出来ていると感じている。このチームワークを崩すことなく、今年も目標を掲げ進んでいきたいと思う。

2、 利用者の状況

（1）年齢別・男女別登録者数　　平成28年3月31日現在登録者数

区　分	利用人数	年齢別利用者人数							
		～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	
男	40	2	0	9	5	9	10	5	
女	85	3	7	5	6	27	22	15	
計	125	5	7	14	11	36	32	20	
比　率　%	100.0%	4.0%	5.6%	11.2%	8.8%	28.8%	25.6%	16.0%	0.0%

（2）地区別登録者数　　平成28年3月31日現在登録者数

区分	西北	西南	東	柏林台	音更町	幕別町	南町	緑ヶ丘	清流	依田	愛国	自由が丘	南の森	その他	
男	6	16	7	2	5	1	1	0	1	1	0	0	0	0	40
女	35	17	7	4	13	2	0	2	0	0	1	1	1	2	85
総数	41	33	14	6	18	3	1	2	1	1	1	1	1	2	125
比　率　%	32.8%	26.4%	11.2%	4.8%	14.4%	2.4%	0.8%	1.6%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	1.6%	100.0%

（3）新規利用者の推移

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	予防	1	0	1	0	0	0	2	1	2	5	0	2	14
	介護	5	4	4	7	2	5	3	4	5	2	1	5	47
	計	6	4	5	7	2	5	5	5	7	7	1	7	61

（4）利用休止・廃止者推移

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	予防	2	0	0	1	2	0	2	1	1	1	0	0	10
	介護	2	3	2	7	2	6	1	1	4	11	5	3	47
	計	4	3	2	8	4	6	3	2	5	12	5	3	57

新規及び廃止による延べ数の増減	予防	4
	介護	0
	計	4

（5）利用者各月実績推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
予防	37	36	36	38	42	44	44	42	42	43	38	43	485	40.42
介護	57	60	66	67	68	68	69	69	71	70	74	74	813	67.75
合計	94	96	102	105	110	112	113	111	113	113	112	117	1298	108.17

（6）介護・予防利用者構成比内訳

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
支援　1	16	15	16	17	20	22	22	20	19	18	14	16	215	17.92
支援　2	21	21	20	21	22	22	22	22	23	25	24	27	270	22.50
介護　1	27	25	30	31	28	30	29	30	31	33	34	35	363	30.25
介護　2	11	13	14	13	13	16	18	18	19	17	20	19	191	15.92
介護　3	7	10	10	10	13	10	9	8	6	5	7	6	101	8.42
介護　4	7	7	6	6	7	5	7	8	7	7	7	8	82	6.83
介護　5	5	5	6	7	7	7	6	5	8	8	6	6	76	6.33
合計	94	96	102	105	110	112	113	111	113	113	112	117	1298	108.17

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
障害利用人数	0	0	0	0	2	2	1	1	2	4	4	4	20	
派遣時間数	0	0	0	0	11.5	9.5	4	4.5	24	54.25	44	80	231.75	
目標派遣時間	0	0	0	0	50	50	50	50	50	50	50	50	400	
過不足時間	0	0	0	0	−38.5	−40.5	−46	−45.5	−26	4.25	−6	30	−168.25	
派遣回数数	0	0	0	0	17	13	8	9	24	43	48	81	243	

５．平成２７年度　地域密着型介護老人福祉施設

にれの木　事業報告書

（1）運営方針（目標）

1、施設サービス計画に基づき、利用者がその能力に応じて自律した日常生活を営むことができるよう支援する。

・個別ケアの基本となる「施設サービス計画（ケアプラン）」及び「栄養ケア計画」をニーズに沿って多職種協働で策定し、計画に基づくサービスを提供した。また、各個別サービス計画が、日々の生活のなかでどれだけ有効に実施されているかモニタリングを行い、見直しが必要な時は再アセスメントを実施して、適切にＰＤＣＡサイクルを展開した。

2．可能な限り在宅への復帰を念頭に置き、入居前の生活が連続したものとなるよう支援する。

・体操やレクリエーションに限らず日々の生活動作においても機能維持に繋がる生活リハビリとして身体的機能の維持に努め、外出・外泊時の入居者、家族の負担軽減に取り組んだ。また入居者本人・家族とのコミュニケーションの中から情報を収集し、その人らしさが保たれるケアとなるよう取り組んだ。

3．明るく家庭的な雰囲気作りをする。

・入居者・家族・職員の間で互いの理解が深まり家庭的な雰囲気ながらも、互いを尊重しあえるなじみの関係ができている。日々の生活の中で少しずつそれぞれの役割が出来てきている。

4．地域特性に応じた地域包括ケアシステムの構築。

・西帯圏域の居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターとの連携を図り、圏域内の入居申込受付の促進を行った。

5．同業者と綿密な連携を図る。

・必要に応じ報告・連絡・相談を行いスムーズなサービス提供に努めた。また、十老施協主催の研修会等に参加し連携を図った。

6．刀圭会グループ（医療、社福）事業所と情報を共有し、協働する。

・待機者の情報交換や入退院情報を共有し、共同体制の構築に努めた。その結果、安定的な運営に寄与することが出来た。

7．安定的な運営。

・入居者の定期健診の実施及び体調不良時に早期受診を行うことで、早期治療に努めたものの、長期入院者による減収は間逃れず、空床利用での短期入所を促進したが減収をカバーするまでのニーズが思いのほか少なかった。

（2）重点実施項目

1、地域貢献の視点

・地域交流（町内会行事への参加、町内ゴミ拾い、温泉一般開放、近隣保育所等）

・町内会活動（花壇清掃等）への参加や町内会夏祭りへの参加及び出店を実施。温

泉の一般開放（毎週日曜日、１６：００～１９：００）の実施。また、保育園児の慰問や近隣中学校の交流学習を積極的に受け入れるなど交流を深め、地域に根ざした活動を行った。

・災害時等の緊急時における協力と連携（避難場所や炊き出しの提供等）

・災害発生時に備え、避難訓練を定期的に実施し、及び消防計画の改訂を行った。

２、財務の視点

・利用率の維持を堅持する

・平成27年度実績95.4%　目標を達成までに1.1ポイント及ばず。入居者の健康管理とスムーズな入居受入及び入院中の短期入所での空床利用の更なる促進が必要である。

・経費のさらなる削減を目指す

・ペーパーレスの定着。節電や節水の意識が高まっている。また、オムツの取引業者の見直しや使用方法の検討により、無駄なオムツ使用を抑えることが出来た。

・入院患者を増やさない

・利用者の高齢化や重症化に伴い、体調を崩しやすく受診が多くなったため、早期発見、早期対応に努めたものの、高齢により回復するまでの期間を要してしまい、長期入院を避けられない状況があった。

３、利用者の視点

・利用者、家族との信頼関係を築く

・面会時等に家族へ施設での取り組みや生活状況を伝えることで、情報共有が図れ、信頼関係の構築につながった。

・満足度を向上させる

・入居者の誕生日には家族と連絡を取り合い、家族の協力のもと本人が望む１日を過ごせるよう取り組んだ。

・状況に応じた柔軟かつ迅速な対応をする

・救命救急講習を年１回受講し、急変時にも柔軟且つ迅速に対応できる体制を整え、実施した。

・口腔マネジメントに基づき口腔機能を維持、増進させる

・年２回の歯科医師の往診や歯科衛生士により口腔衛生に関するアセスメントやプラン作成が行われ、家族との相互理解の元、入居者本人が経口摂取を維持できる取り組みを行うことが出来た。

・機能訓練による健康の維持増進を図る

・生活リハビリとして排泄、食事、入浴などの日常生活動作を、必要以上の援助にならないようにできることはできるだけ自身で行ってもらえるよう取り組んだ。また日々の職員間の情報交換などから入居者の状態変化にこまめに応じ無理な生活リハビリにならないように注意し、健康維持・増進を図った。

・季節に応じた外出行事を提供する

・四季を感じるドライブや町内会夏祭りへの参加等、季節に応じた行事を実施した。

４、業務のプロセスの視点

・各事業所間の連携・強化を図る

・共通利用者の情報交換を行うことでケア内容の事前確認や注意事項などの情報収集ができサービス利用時の不安軽減につなげることが出来た。

・チームワークの構築（介護、看護、事務、相談、医師）

・グループセッションなどのＩＴ活用による情報交換、意見集約を行うことが出来た。

・報告、連絡、相談の徹底を図る

・グループセッションを活用することで、報・連・相がタイムリーで確実に周知徹底することが出来た

・業務の効率化を図る（IT活用、ペーパーレス）

・ＩＴ活用、ペーパーレスへの意識統一を図ることが出来た。また、職員の気づき

や考動が増え、業務やケア内容をこまめに見直すことで無駄を省くことが出来た。

・**感染症対策の強化をする**

・手洗い・消毒の通年実施、季節に応じた感染症に対する注意喚起、吐物処理方法の周知徹底などと合わせ、職員一人一人の意識の向上が図れた。

・**利用者の情報を他職種で共有**

・多職種で情報を共有することで、各専門職の視点からのアドバイスや業務分担等につながり業務効率が向上した。

・**職員のメンタルヘルスに注意する**

・職員全体でうなずきや共感的態度を示すとともに、相手の感情を理解するように意識統一することで、働きやすい職場環境を作ることに努めた。また、年２回個別面談を実施し、メンタル状況や職場環境の確認や助言を図った。

５、学習と成長の視点

・**自己研鑽（介護、看護、事務、相談に関する事で研鑽を行う）**

・職員一人一人が１年間の目標を立て業務・ケアに携わることで目的を持った取り組みが出来た。

・**研修会（外部、内部）への参加、フィードバックし実践へつなげる**

・職員一人一人が施設内委員会主催研修やアメ帯主催研修、各業者による研修への参加をしており知識や技術を向上させるための努力をした。

・**平成２７年度介護保険制度改正の動向把握、対応策を検討する**

・情報収集のために制度改正説明会等への参加、各担当者と協同し対応策を検討、実施した。

・**コミュニケーションを積極的に図る**

・コミュニケーションを図ることで、双方の意向を把握でき、意志疎通が図れた。

６、人材と変革の視点

・**法人基本理念を理解する**

・法人理念をフロアに貼りだし、刀圭会グループの一体化を意識した。

・**刀圭会職員としての資質向上を図る**

・職員各々が勉強会等に参加するなどして、資格取得（介護福祉士取得者有）することが出来た。また、フロア会議等で介護方法を見直すための話し合いを行い、各々が積極的に意見することが出来た。

・**やりがいと誇りを持つ**

・居室担当制により職員一人一人が責任を持って入居者のケアを考え、他職員に情報発信しチームケアの実施に取り組むことが出来た。

・**刀圭会グループ（医療、社福）事業所との交流・連携を強化する。**

・勉強会や親睦会行事を通して情報交換や交流、連携を図った。

・**人間性の豊かさを養う**

・グループ内接遇研修などに参加することで、一般常識や教養学んだ。

（３）会議

① 職員全体会議（月１回）　② ケース検討会議（月１回）
③ 各委員会会議（月１回）　④ 入居優先度判定会議（年６回）
⑤ 事業所会議（月１回）

（４）職員の研修

① 全国、全道社会福祉協議会主催による研修会
② 全国、全道、十勝老人福祉施設協議会主催による研修会
③ 北海道社会福祉研修所主催による研修会
④ 十勝管内及び、その他の地域における社会福祉施設の視察研修会
⑤ 刀圭会グループ（医療、社福）研修会
⑥ 伝達報告会
⑦ 全国、全道老人福祉施設協議会主催による研究発表大会への参加

2．入居者の状況

平成28年3月31日 現在

（1）人数・年齢

性　別	人　数	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男	5	91歳	81歳	84.6歳
女	23	103歳	72歳	86.1歳
合　計	28名			85.4歳

（2）年齢層別人数

年齢／性別	男	女	計	構成比率
60～64				0.0 %
65～69				0.0 %
70～74		4	4名	14.3 %
75～79		3	3名	10.7 %
80～84	3	3	6名	21.4 %
85～89	1	4	5名	17.9 %
90～	1	9	10名	35.7 %
合計	5名	23名	28名	100.0 %

（3）入居期間人数

期間／性別	男	女	計	構成比率
6ヶ月未満	2	2	4名	14.3 %
6～1年未満		3	3名	10.7 %
1～2年未満		4	4名	14.3 %
2年以上～	3	14	17名	60.7 %
合計	5名	23名	28名	100.0 %
平均入居期間	22.8 ヶ月	32.9 ヶ月	27.9 ヶ月	

（4）介護度別人数

要介護度/性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合　計
男			1	4		5名
女		1	5	8	9	23名
合　計	0名	1名	6名	12名	9名	28名
構成比率	0.00%	3.57%	21.43%	42.86%	32.14%	平均介護度 4.04

（5）入居・退居の状況

①年度内入居者の人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男							1					1	2名
女	2		1		1	1			1		1		7名
計	2名	0名	1名	0名	1名	1名	1名	0名	1名	0名	1名	1名	9名

※入居者の内訳

・自宅　5名　　・グループホーム　1名　　・老健　2名　　・医療機関　1名

②年度内退居者の人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男			1										1名
女					2		1	1		1		2	7名
計	0名	0名	1名	0名	2名	0名	1名	1名	0名	1名	0名	2名	8名

※退居者の内訳

・医療機関　8名

（6）待機者の状況（H27.3.31現在）

○性別　介護度別

要介護度/性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合　計
男	3	7	14	14	4	42名
女	11	13	14	9	7	54名
合計	14名	20名	28名	23名	11名	96名

○平均介護度

男性	女性	平均
3.21	2.78	3.00

○地域別

西帯広・開西	広陽・若葉	西	川北	東	川西・大正	鉄南	南	合計
29	6	21	16	11	0	7	6	96名

○待機場所別

在宅	病院	老健	グループホーム	他施設	合計
29	18	34	10	5	96名

3. 実施事業（行事等）　　特養（ｼｮｰﾄ）、デイ、多機能の行事

日　付	行事名・場所	内　容　等	事業所
8 月 30 日	にれの木夏祭り	利用者や家族、地域住民が参加し縁日や屋台、余興や盆踊りを楽しむ。	特養・他
9 月 21 日	にれの木敬老会	慰問や節目の方をお祝いする。	特養・他
12 月 25 日	にれの木クリスマス会	職員がサンタクロースやトナカイの衣装で、利用者にプレゼントを配る。	特養・他
1 月 17 日	にれの木新年交礼会	職員による二人羽織りや士幌町よさこいチームによる踊りを楽しむ。	特養・他
2 月 3 日	にれの木節分	職員が鬼の衣装で各事業所を回り、利用者から豆（新聞作成）をぶつけてもら	特養・他
4 月 30 日 ～ 5 月 6 日	お花見ドライブ	すずらん公園の桜見物。公園奥の桜並木を見ながらの散歩をおこなう。	デイサービス
6 月 8 日 ～ 6 月 21 日	スイートピアガーデン	柳月スイートピアガーデンに行き、買物や飲食を楽しむ。	デイサービス
10 月 17 日	お弁当レクリエーション	事前に好きなお弁当を選んでいただき、施設まで配達してもらう。	デイサービス
10 月 12 日 ～ 10 月 17 日	十勝ヌップクガーデン	花畑や紅葉、池の中の魚や牧場などを会場内の遊歩道を散歩しながら楽しむ。	デイサービス
2 月 26 日	お弁当レクリエーション	事前に好きなお弁当を選んでいただき、施設まで配達してもらう。	デイサービス
5 月 7 日	音更町鈴蘭公園	鈴蘭公園の桜見物、公園奥の桜並木を見ながらの散歩をおこなう。	多機能
5 月 8 日 ～ 5 月 9 日	芽室町愛菜屋	軽ドライブをしながら愛菜屋に行き、買物や飲食を楽しむ。	多機能
6 月 21 日	芽室町新嵐山展望台	天気が良く当日に企画しドライブを楽しみ、展望台からの景色を一望する。	多機能
7 月 15 日 ～ 7 月 17 日	焼き肉レクリエーション	施設敷地内で焼き肉（昼食）やゲームを楽しむ。	多機能
10 月 1 日 ～ 10 月 7 日	六花亭西３条店	買物や喫茶店での飲食を楽しむ。	多機能

毎月１回　各事業所ごとのお誕生会

毎月（10月より）　地域住民に温泉開放（毎週日曜日）

毎月1回　町内会の整地清掃（サルビア花壇整理含む）

天気の良い日
全事業所　北明リハビリ農園へドライブレク

年２回　避難訓練

６．平成２７年度　小規模多機能型居宅介護

にれの木　事業報告書

（１）運営方針（目標）

１、利用者の身体機能や希望に応じて、通い、訪問、宿泊を組み合わせ、生活の連続性を支援する。

・各サービスの連続性により在宅生活の継続性を図る為、利用者様の生活課題や能力の可能性に沿った居宅サービス計画書を作成し支援している。

２．帯広市、地域包括支援センター、帯広市の保健・医療・福祉サービスの提供主体との密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

・運営推進会議にて市･介護保険課、地域包括支援センター職員からの事業所運営に関する助言や意見交換、介護保険制度に関する情報交換を実施している。

３．明るく家庭的な雰囲気作りをする。

・定期的な宿泊サービス利用の利用者様にとって事業所が自宅同様に交流の場となる様、家族や親戚、友人知人への積極的な来設を働きかけている。

４．地域特性に応じた地域包括ケアシステムの構築。

・刀圭会グループにて定期開催する地域包括ケア会議に参加している。

５．同業者と綿密な連携を図る。

・十勝小規模多機能連絡会会員としての活動を実施している。

６．刀圭会グループ（医療、社福）事業所と情報を共有し、協働する。

・利用者様の心身状況や生活環境に合わせ、各事業所の特徴を活かしたサービス提供が実現出来る様、地域包括ケア会議にて情報交換やサービス提案を実施している。

７．安定的な運営。

・医療機関、地域包括支援センターに対して小規模多機能サービス新規利用の提案や職員の働きやすい環境を把握する為、個人面談を実施している。

（２）重点実施項目

１、地域貢献の視点

・地域交流（町内会行事への参加、町内ゴミ拾い、温泉一般開放、近隣保育所等）

・災害時等の緊急時における協力と連携（避難場所や炊き出しの提供等）

・事業所地域内の保育園が企画する行事に利用者様や職員が参加、また町内会が企画する野外食事会に屋台を出店し地域交流を実施している。

２、財務の視点

・利用率の維持を堅持する

・経費のさらなる削減を目指す

・空床室の積極的な利用を図る

・２６年度は利用率目標を達成した為、２７年度は登録定員を変更、増員し利用率目標も前年度より高く設定したが目標を達成することが出来なかった。

3、利用者の視点

・利用者、家族との信頼関係を築く
・満足度を向上させる
・状況に応じた柔軟かつ迅速な対応をする
・在宅生活維持に向けた家族支援を行う
・記録物の整備（介護計画を介護記録の連動性）をする
・各利用者様担当の職員による生活課題や能力の可能性に沿った支援の提案、介護計画書に反映しサービス提供を実施している。

4、業務のプロセスの視点

・各事業所間の連携・強化を図る
・チームワークの構築（介護、看護、ケアマネ）を行う
・報告、連絡、相談の徹底を図る
・業務の効率化を図る（IT活用、ペーパーレス）
・感染症対策を強化する
・利用者の情報を他職種で共有
・職員のメンタルヘルスに注意する
・施設内ＰＣネットワーク（グループセッション）活用による事業所間、他職種間、事業所内職員間の情報共有や報連相の徹底、業務効率化（ペーパーレス）に繋げている。

5、学習と成長の視点

・自己研鑽（介護、看護、ケアマネに関する事で研鑽を行う）
・研修会（外部、内部）への参加、フィードバックし実践へつなげる
・コミュニケーションを積極的に図る
・法人内職員に向けた本部企画の研修会に職員が参加、また、にれの木内研修会を法人内職員全体に周知し共に学ぶ場を提供出来た。

6、人材と変革の視点

・法人基本理念を理解する
・刀圭会職員としての資質向上を図る
・やりがいと誇りを持つ
・刀圭会グループ（医療、社福）事業所との交流・連携を強化する。
・人間性の豊かさを養う
・登録定員や１日の通所定員を変更、増員し利用率目標を前年度より高く設定することでサービスの質向上、他事業所間や職員間の連携強化、業務効率化に対する職員個々の意識改革が必要となった。

（３）会議

① 職員全体会議（月１回）
② ケース検討会議（月１回）
③ 各委員会会議（月１回）
④ 運営推進会議（年６回）
⑤ 事業所会議（月１回）

（４）職員の研修

① 全国、全道社会福祉協議会主催による研修会
② 全国、全道、十勝老人福祉施設協議会主催による研修会
③ 北海道社会福祉研修所主催による研修会
④ 十勝管内及び、その他の地域における社会福祉施設の視察研修会
⑤ 刀圭会グループ（医療、社福）研修会
⑥ 伝達報告会
⑦ 全国、全道老人福祉施設協議会主催による研究発表大会への参加
⑧ 十勝小規模多機能連絡会主催による研修会

（1）利用登録・解除の状況

①登録者の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	男	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	18名
	女												1	1名
要支援2	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12名
	女	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	18名
要介護1	男	2	2	3	3	2	2	3	1	2	2	2	2	26名
	女	8	9	9	9	9	9	10	9	10	11	11	11	115名
要介護2	男	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2	2	27名
	女	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	46名
要介護3	男		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11名
	女	3			1	1	1	1	2	2	2	2	1	16名
要介護4	男											1	1	2名
	女													0名
要介護5	男													0名
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12名
計	男	6	8	9	9	8	8	9	7	8	8	8	8	96名
	女	17	16	16	17	17	17	17	17	18	19	18	19	208名
計		23名	24名	25名	26名	25名	25名	26名	24名	26名	27名	26名	27名	304名

②年度内新規利用登録者の人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	1	2	1				1		1		1		7名
女		1	1					1	1	1		2	7名
計	1名	3名	2名	0名	0名	0名	1名	1名	2名	1名	1名	2名	14名

③年度内登録解除者の人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男				1			2			1		1	5名
女	2						1				2	1	6名
計	2名	0名	0名	1名	0名	0名	3名	0名	0名	1名	2名	2名	11名

※登録解除者の内訳

医療機関　4名、介護老人福祉施設　2名、北海道外に引越し　2名、
介護老人保健施設　1名、有料老人ホーム　1名、サービス付高齢者住宅　1名

（2）年齢層別人数

H28.3.31現在

年齢／性別	男	女	計	構成比率
60～69			0	0.0%
70～79	2	4	6	24.0%
80～89	3	10	13	52.0%
90～99	2	4	6	24.0%
100～			0	0.0%
合計			25	100.0%

（3）登録期間人数

H28.3.31現在

期間／性別	男	女	計	構成比率
3ヶ月未満	1	3	4	16.0%
3～6ヶ月未満	1	1	2	8.0%
6ヶ月～1年未満		2	2	8.0%
1～2年未満	1	4	5	20.0%
2～3年未満	2	5	7	28.0%
3～4年未満	2	3	5	20.0%
4年以上				0.0%
合計	7	18	25	100.0%

7．平成２７年度　デイサービスセンター

にれの木　事業報告書

（１）運営方針（目標）

１、利用者の社会的孤立感の解消や心身機能の維持並びに利用者の家族の身体的・精神的負担の軽減を図る。

・職員間の意識の統一や連携により、利用者様に喜んでいただける事業所作りができている。利用者様だけでなく、ご家族へのケアの必要性についても常に話し合いの場を設けている。

２、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的なサービスを提供する。

・帯広市や包括、各居宅支援事業所などとの連携がスムーズに図れるよう、頻回に連絡を取り合ったり、足を運び関係づくりを続けている。それに伴い総合的なサービスが提供できている。

３．地域特性に応じた地域包括ケアシステムの構築。

・地域ケア会議への参加、町内会行事への参加、ボランティアの受け入れ、多職種との連携などはできている。今後もさらに幅を広げ地域包括ケアシステムの構築を進めていく。

４．刀圭会グループ（医療、社福）事業所と情報を共有し、協働する。

・アメニティ帯広の通リハ移行に関しての取り組みに参加。社福内他事業所との情報共有、協働は一部の事業所に限られているため、グループ全体へは今後の課題。

５．安定的な運営。

・下半期は稼働を伸ばすことができたが、28年4月からの地域密着型通所介護への移行に伴い、12月ごろから利用者登録数を増やすことができず調整に苦難し、2月は計画を0.1%割ってしまった。

（２）重点実施項目

１、地域貢献の視点

・地域交流（町内会行事への参加、町内ゴミ拾い、温泉一般開放、近隣保育所等）

・花壇整備、町内会の夏祭り、ゴミ拾い、温泉一般開放、保育所の慰問受け入れなど実施できている。

・災害時等の緊急時における協力と連携（避難場所や炊き出しの提供等）

・今年度なしに災害なし。

２、財務の視点

・利用率の維持を堅持する

・単月では11月、12月に稼働率95%を達成したが、通年通しては前半の低迷が原因で83.7%にとどまる。下半期は稼働率が上昇し90%となる。

・経費のさらなる削減を目指す

・レクリエーション道具の手作りや裏紙の再利用、午睡時に使用のバスタオルの再利用など継続。

・利用日を増やす

・利用者10名の利用日の増日を行う。

3、利用者の視点

・利用者、家族との信頼関係を築き満足度を向上させる

・連絡ノートや送迎時などにご家族との関係を深め信頼度の向上が図れている。2月にアンケートを実施し、確認済み。

・通所介護計画に基づいた利用者本位の介護を実施する

・通所介護計画書に基づき支援を実施、定期的に職員間でカンファレンスを行い、更新時の見直しに生かしている。

・機能訓練指導員による健康維持・増進を図る

・機能訓練指導員が毎日集団体操や歩行運動を実施し、利用者の身体機能の維持向上に努めている。

・口腔マネジメントに基づき口腔機能を維持、増進させる

現在、全利用者が口腔機能向上訓練に参加されている。

・社会的孤立感を解消する

・通所をより楽しいものにすることで利用者の孤立感を解消できるよう、職員間で月に1度話し合いの場を設け、サービスの質の向上に向けて努めている。

4、業務のプロセスの視点

・各事業所間の連携を強化する

・ユニット特養への昼食時食事介助の助勤を行う。
ショートステイとの情報共有を密にし、同利用者が利用するときの連携、協力体制は強化できている。

・チームワークの構築（介護、看護、相談）

・9月～10月に新しい職員が入職、11月に看護師が定年退職と、職員の入れ替わりがあり、チームワークの構築に向けて継続して取り組みを行っている。

・報告、連絡、相談の徹底を図る

・それぞれが疑問を感じたときにはすぐに相談できる体制ができており、グループセッションを活用し情報の共有もできている。細かい報告もできている。

・業務の効率化を図る（IT活用、ペーパーレス）

・グループセッションやワイズマンの活用が効率的に行えている。

・感染症対策を強化する

・職員や利用者の手洗い嗽、手指消毒の徹底。研修会への参加で感染症に対する認識を強く持ち、実践することができている。

5、学習と成長の視点

・自己研鑽（介護、看護、相談に関する事で研鑽を行う）

・実践的な介護技術の取得に向けて、事業所内での勉強会を職員発信で都度行っている。

・研修会（外部、内部）への参加、フィードバックし実践へつなげる

・内外部の各研修会への積極的な参加ができている。参考にできることは職員で話し合って実際に取り入れている。

・平成２７年度介護保険制度改正の動向把握、対応策を検討する

・介護報酬の大幅な削減により収入も減少したため、稼働率を上げるために職員への周知を徹底して行い、日々対応策を検討できたことで職員全員の意識の向上にも繋げることができた。

・コミュニケーションを積極的に図る

・定期的に交流の場を設けてコミュニケーションが図れるよう努めている。

6、人材と変革の視点

・法人基本理念を理解する

・毎朝、法人基本理念を事業所の職員全員で復唱している。

・刀圭会職員としての資質向上を図る

・「口コミで利用者が集まってくるデイサービス」を合言葉に刀圭会の施設職員として資質の向上に各自努めている。

・**やりがいと誇りを持つ**
　・介護キャリア段位制度の導入や、一人一人に役割を持たせることで職員のやる気や取り組む姿勢が向上している。
・**刀圭会グループ（医療、社福）事業所との交流・連携を強化する。**
　・合同行事の交流の場への参加や、業務上の連携は限られた職員だけになってしまった。今後も継続して取り組みを行い、さらに強化していく。
・**医療法人との連携を強化する**
　・ほとんど連携が取れておらず、今後の課題。
・**人間性の豊かさを養う**
　・人間関係や職員のメンタルヘルスなど、働きやすい職場の環境を整えることで、人間性の豊かさも養えると考え、そのための取り組みを継続中。

（３）会議

①　職員全体会議（月１回）　　②　ケース検討会議（月１回）
③　各委員会会議（月１回）　　④　事業所会議（月１回）

＊①③④は計画通り実施。
②は月1回の会議のほかに検討事項が出たときに都度行うことにしている。

（４）職員の研修

①　全国、全道社会福祉協議会主催による研修会
②　全国、全道、十勝老人福祉施設協議会主催による研修会
③　北海道社会福祉研修所主催による研修会
④　十勝管内及び、その他の地域における社会福祉施設の視察研修会
⑤　刀圭会グループ（医療、社福）研修会
⑥　伝達報告会
⑦　全国、全道老人福祉施設協議会主催による研究発表大会への参加
⑧　十老協デイサービス部会の研修会

＊①③⑦は実施できていない

2．利用者の状況

平成28年3月31日 現在

（1）人数・年齢

性　別	人　数	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男	20名	98歳	72歳	84.4歳
女	44名	97歳	66歳	84.8歳
合　計	64名			84.6歳

（2）年齢層別人数

年齢／性別	男	女	計	構成比率
60～64	0	0	0名	0 %
65～69	0	1	1名	2 %
70～74	2	2	4名	6 %
75～79	3	6	9名	14 %
80～84	4	11	15名	23 %
85～89	7	12	19名	30 %
90～99	4	12	16名	25 %
100～	0	0	0名	0 %
合計	20名	44名	64名	100 %

（3）介護度別人数

要介護度/性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合　計
男	6名	9名	1名	2名	0名	18名
女	13名	8名	5名	0名	1名	27名
合　計	19名	17名	6名	2名	1名	45名

要介護度/性別	要支援1	要支援2	合　計
男	2名	0名	2名
女	6名	11名	17名
合　計	8名	11名	19名

要介護認定期限切れ（休止者）	
男	1名
女	3名
合計	4名

８．平成２７年度　ショートスティ

にれの木　事業報告書

（１）運営方針（目標）

１．要介護者における心身機能の維持、ならびに、利用者の家族における身体的・精神的負担の軽減を図る。

・介護者の介護軽減やレスパイト（休息）、独居、高齢者世帯での生活に不安を抱えた方々の軽減を図り、安心して在宅生活が継続できるように支援を行った。

２．関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、継続して総合的なサービスを提供する。

・休日等の急的な相談にもより迅速に対応した。刀圭会のスケールメリットを生かし、グループ内でベット調整することで、継続して総合的なサービスを提供することが出来た。

３．地域特性に応じた地域包括ケアシステムの構築。

・地域ケア会議への参加、町内会行事への参加、ボランティアの受け入れ、多職種との連携などはできている。今後もさらに幅を広げ地域包括ケアシステムの構築を進めていく。

４．刀圭会グループ（医療、社福）事業所と情報を共有し、協働する。

・ななかまどとの共通利用者の利用情報を共有し、利用に繋げる連携を図った。アメニティ帯広退所後の利用者を受け入れる取り組みを行い、グループ内での包括的なサービスの提供を行った。

５．安定的な運営。

・定期利用者の他施設への入所及び小規模多機能型介護への移行により登録者の減少があり、新規利用者の獲得を積極的に図ったものの、短期間の利用の方が多く減少した登録者のカバーを図るまでには届かなかった。

（２）重点実施項目

１、地域貢献の視点

・地域交流（町内会行事への参加、町内ゴミ拾い、温泉一般開放、近隣保育所等）

・町内会活動（花壇清掃等）への参加や町内会夏祭りへの参加及び出店を実施。温泉の一般開放（毎週日曜日、１６：００～１９：００）の実施。また、保育園児の慰問や近隣中学校の交流学習を積極的に受け入れるなど交流を深め、地域に根ざした活動を行った。

・災害時等の緊急時における協力と連携（避難場所や炊き出しの提供等）

・災害発生時に備え、避難訓練を定期的に実施し、及び消防計画の改訂を行った。

２、財務の視点

・利用率の維持を堅持する

・平成27年度実績74.7%　92%目標を達成することが出来なかった。入院などに急なキャンセルやリピーターの施設入所などが相次いだ

・緊急利用を受け入れる

・休日の利用相談にも対応し、緊急利用の早期対応を行った。

・空床型を積極的に活用する
（ベットコントロール、居宅介護支援事業所・医療機関への情報提供、連絡調整）
・入院期間をこまめに確認し、空床利用を効率よく活用した。（入院先は協立病院が大半を占め、地域連携課と密に連絡を取り合った）
・経費のさらなる削減を目指す
・ペーパーレスの定着とともに節電や節水の意識が高まっている。

3、利用者の視点
・利用者、家族との信頼関係を築き満足度を向上させる
・家族へ施設での取り組みや生活状況を随時伝えることで、情報共有が図れ、信頼関係の構築につながった。
・その人の生活状況に応じた柔軟なサービス提供かつ迅速な対応をする
・サービス担当者会議に出席し利用者の生活状況を把握。緊急の受け入れなど柔軟に対応した。
・医療依存度の高い利用者を受け入れる
・尿道留置バルーンカテーテル使用者やインスリン注射等の医療処置を受けている利用も積極的に受け入れた。
・在宅生活維持に向けた家族支援（レスパイト等）を行う
・介護者のニーズにも柔軟に対応し支援することが出来た。
・短期入所生活介護計画の作成をする
・本人、家族の意向を取り入れた計画書を作成した。

4、業務のプロセスの視点
・各事業所間の連携を強化する
・共通利用者の情報交換を行うことでケア内容の事前確認や注意事項などの情報収集ができサービス利用時の不安軽減につなげることが出来た。
・チームワークの構築（介護、看護、事務、相談、医師）
・随時、関係職員とのカンファレンスを実施、グループセッションなどのＩＴ活用による情報交換、意見集約を行うことが出来た。
・報告、連絡、相談の徹底を図る
・グループセッションを活用することで、報・連・相がタイムリーで確実に周知徹底することが出来た
・業務の効率化を図る（IT活用、ペーパーレス）
・ＩＴ活用、ペーパーレスへの意識統一を図ることが出来た。また、職員の気づきや考動が増え、業務やケア内容をこまめに見直すことで無駄を省くことが出来た。
・感染症対策を強化する
・洗い・消毒の通年実施、季節に応じた感染症に対する勉強会、注意喚起、吐物処理方法の周知徹底などと合わせ、職員一人一人の意識の向上が図れた。

5、学習と成長の視点
・自己研鑽（介護、看護、事務、相談に関する事で研鑽を行う）
・職員一人一人が１年間の目標を立て業務・ケアに携わることで目的を持った取り組みが出来た。
・研修会（外部、内部）への参加、フィードバックし実践へつなげる
・職員一人一人が施設内委員会主催研修やアメ帯主催研修、各業者による研修への参加をしており知識や技術を向上させるための努力をした。
・コミュニケーションを積極的に図る
・コミュニケーションを図ることで、双方の意向を把握でき、意志疎通が図れた。

6、人材と変革の視点
・法人基本理念を理解する
・法人理念をフロアに貼りだし、刀圭会グループの一体化を意識した。
・刀圭会職員としての資質向上を図る
・職員各々が勉強会等に参加するなどして、資格取得（介護福祉士取得者有）す

ることが出来た。また、フロア会議等で介護方法を見直すための話し合いを行い、各々が積極的に意見することが出来た。

・やりがいと誇りを持つ

・居室担当制により職員一人一人が責任を持って入居者のケアを考え、他職員に情報発信しチームケアの実施に取り組むことが出来た

・刀圭会グループ（医療、社福）事業所との交流・連携を強化する。

・勉強会や親睦会行事を通して情報交換や交流、連携を図った。

・医療法人との連携を強化する

・協立病院地域連携課及びアメニティ帯広との情報共有により、スムーズな入退所調整が出来た。

・人間性の豊かさを養う

・グループ内接遇研修などに参加することで、一般常識や教養学んだ。

（３）会議

① 職員全体会議（月１回）　② ケース検討会議（月１回）
③ 各委員会会議（月１回）　④ 事業所会議（月１回）

（４）職員の研修

① 全国、全道社会福祉協議会主催による研修会
② 全国、全道、十勝老人福祉施設協議会主催による研修会
③ 北海道社会福祉研修所主催による研修会
④ 十勝管内及び、その他の地域における社会福祉施設の視察研修会
⑤ 刀圭会グループ（医療、社福）研修会
⑥ 伝達報告会
⑦ 全国、全道老人福祉施設協議会主催による研究発表大会への参加

2．利用者の状況

平成28年3月31日 現在

（1）男女別利用者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	9	9	9	10	9	7	9	10	7	6	7	6	98名
女	12	12	17	17	16	19	18	18	17	17	16	17	196名
計	21名	21名	26名	27名	25名	26名	27名	28名	24名	23名	23名	23名	294名

（2）介護度別利用者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
支援1					1	1							2名
支援2		1	2				1			2			6名
介護1	3	6	7	12	9	11	11	11	6	6	6	8	96名
介護2	11	10	8	7	7	7	7	11	11	9	9	8	105名
介護3	4	3	5	6	7	6	6	4	4	4	5	5	59名
介護4	2	1	1	1			1	1	2	1	2	2	14名
介護5	1		3	1	1	1	1	1	1	1	1		12名
計	21名	21名	26名	27名	25名	26名	27名	28名	24名	23名	23名	23名	294名
平均介護度	2.38	1.90	2.27	1.96	1.98	1.86	1.96	1.93	2.21	2.04	2.26	2.04	2.06

（3）平均利用者数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
※延べ人数	男	94	72	69	63	91	53	53	35	26	28	32	24	640名
	女	74	55	80	98	79	114	89	90	136	133	174	151	1273名
	計	168	127	149	161	170	167	142	125	162	161	206	175	1913名
1日平均		5.6	4.1	5.0	5.2	5.5	5.6	4.6	4.2	5.2	5.2	7.1	5.6	5.24名
稼働率		80.0%	58.5%	71.0%	74.2%	78.3%	79.5%	65.4%	59.5%	74.7%	74.2%	105.1%	80.6%	75.1%

※延べ人数は特養入院者の空床利用も含んでいます。

9.　平成２７年度　指定居宅介護支援事業所

はなみずき　事業報告書

（１）運営方針（目標）

１、要介護状態または要支援状態になった方でも可能な限りご自宅で生活できるように様々な提案を行い支援する。

・アセスメントにおいて実際に何が原因で生活に支障が出ているのか、困っている事は何かを明確にし、ご本人やご家族の希望に沿って介護保険外の福祉サービスも合わせ提案している。場合によっては地域包括支援センターや高齢者福祉課へも情報提供を行い、地域ケア会議による近隣住民等も含めた話し合いにより住み慣れた居住地での生活を続けられるよう支援している。

２、過剰なサービス提供とならぬよう、アセスメントにおいてその本人の有する能力を見極め、自立し、尊厳のある生活を送ることが出来るように配慮する。

・介護保険法を遵守し、本人を取り巻く環境因子としての家族や親戚、その他、生活歴等に沿った個々の支援体制を検討している。

３、住環境や支援者の状況、生活歴などその方を全人的にとらえ、本人の希望や選択に基づき、適切なサービス及び福祉サービスを受けられるようコーディネートし、総合的且つ効果的にサービス提供が行われるよう公正中立に支援を行う。

・ケアマネージャーのみの視点でケアプランを作成するのではなく、サービス事業所やご家族、本人の意見や希望を集約し、偏りが生じないよう常に本人家族が中心となる支援を心がけている。

（２）重点実施項目

１、地域貢献の視点

・認定調査受託

・認定調査受託件数は毎月 6 件を受託、実施し年間件数 72 件の実績

・地域交流（にれの木主催季節行事への参加）

・にれの木夏祭りにおいて当日チケット販売担当としてお手伝いに参加。地域住民の方とも触れ合う事ができた。

・包括主催の地域ケア会議への個別事例提供、会議への参加

・地域包括ケア会議への事例の提供をし、包括が中心となって高齢者福祉課、町内会長、民生委員等大勢の出席者を賜り、町内会での会議を開催して頂いた。

２、財務の視点

・経費削減

・電気、ガス、事務費節約を重点的に取り組んだ。プロパンガス休止中。今後も継続し毎月 2121

円（うち基本料金2079円）の削減を図る。電気については前年比3%減を掲げたが、ケアプラン件数の増加に伴い、月平均30時間の残業が発生している事から、夜間照明時間が増え、前年より8504円の増加となっている。

・ケアプラン作成数70件（100%）の達成、維持

・安定的な運営

・昨年7月より常勤職員1名増となり平成28年1月よりケアプラン件数目標を100件に修正。増減を繰り返しながらも100件の達成、以後件数確保の為新規受け入れ継続。

3、利用者の視点

・状況に応じた柔軟かつ誠実で迅速な対応

・状況に応じて連絡を受けてから早々に訪問をする、医療機関、事業所へ連絡調整をする等「スピード」を重視した対応を徹底した。連絡を密にする事でニーズのズレや体調や状態の変化を知ることが出来、適宜必要なサービスの提案に繋がったと思われる。事業所内での情報共有も徹底し、公休日の利用者からの連絡もすぐに取り次ぐ等の対応を行っている。

・営業日及び営業時間外でも連絡可能な体制の確保

・土日祝日の電話転送により電話が繋がらないというご利用者やご家族のストレスを軽減できた事で関係性も向上、「すぐに相談ができる事業所」として認識頂けた。

・課題を明確にし、理解しやすい言葉を用いて計画書を作成

・常にご本人、ご家族を中心に考え、わかりやすい表現方法を選んで用い介護保険制度や計画書の説明に徹した。

・サービス事業所や行政の情報を収集し新しい情報を発信

・刀圭会グループのパンフレットを活用。協立病院地域包括ケア病床のご案内を必要毎にお配りする等連携を図っている。

4、業務のプロセスの視点

・各事業所間の連携・強化

・インターネット上での情報のやり取りによりショートステイ空床確認やデイサービス利用状況、小規模登録者数も適宜情報収集でき、サービス手配や提案時に有効に活用された。グループセッション、スカイプなどでの連携も図れている。

・業務の効率化

・給付管理実績確認もワイズマンの活用によりペーパーレス、時間削減を図ることができている。また、シフト管理により残業時間の軽減となる様働きやすい事業所作りへの取り組みも行っている。

5、学習と成長の視点

・平成27年度介護保険制度改正の動向把握、対応策検討

・厚生労働省からの情報発信、ケアマネ連協、インターネットから情報等を収集。介護保険負担割合証の発行や個人番号のスタート、総合事業の開始等による必要毎の説明やテレビ、新聞等による軽度者への介護保険取り扱い内容の変更を間違えて理解されている方への説明を要した。

・自己研鑽

・研修会（内部・外部）へ参加し、マネジメント力の向上を図る

・帯広市委託の認定調査をアセスメント力向上への学習の機会と捉え意識的に取り組んだ。平成27年度は勉強会や研修会に参加する為の業務調整がつかない事があったが、新規利用者受付やケアマネージメントを通して対応力を身に付けた１年となった。

・地域特性に応じた地域包括ケアシステムの構築に向けた対応の強化

・地域ケア会議への個別事例の提供や愛仁園包括、社協包括主催の圏域ケア会議への出席により情報の共有、視点の強化を図った。

６、人材と変革の視点

・職員間のコミュニケーションを図る

・居宅支援事業所が本体と別棟である為意識をしてコミュニケーションを図るように心がけている。親睦会行事にも積極的に参加し、交流を図った。

・刀圭会グループ（医療、社福）事業所との情報共有、協働

・必要毎の連絡、グループセッション等により各々発信している情報を確認。電子媒体だけでは無く、顔を合わせて話をする機会も持つように心がけている。新規利用者依頼、利用状況確認も含め、密に連絡を取っている。

（３）会議

①連絡会議（毎日、適宜）②ケース検討会議（随時）

当日の予定を確認し、業務にあたっている。その時々の対応に困難を感じている事例について不定期で話し合いを行っている。

（４）職員の研修

①介護保険に関する研修会
②帯広市介護支援専門員連協議会主催による研修会
③十勝連携の会主催による研修会
④社会福祉法人北海道社会福祉協議会主催の研修会
⑤他事業所主催のケース検討会
⑥地域包括支援センター主催の事例検討会、予防プラン勉強会
⑦職場内研修会（刀圭会グループ）

4月16日　愛仁園包括テーマ別勉強会
4月16日　芽室町ケアマネネットワーク会議
4月21日　愛仁園包括事例検討会
5月25日　芽室町地域ケア会議　事例提供
5月27日　帯広市介護支援専門員連絡協議会　定期総会
7月8日　介護給付適正化ケアプラン点検・ヒアリング（２名出席）
7月10日　介護給付適正化研修会

7月21日　愛仁園包括事例検討会
8月20日　芽室町ケアマネネットワーク会議
8月26日～28日　介護支援専門員研修Ⅱ（1名出席）
9月3日　認定調査員研修会（未経験者　札幌開催1名出席）
10月16日　帯広市地域包括江支援センター主任ケアマネ主催　ケアマネ茶話会
10月28日　救命救急講習会
11月13日　平成27年度第3回ケアマネジメント支援会議
12月1日　認定調査員現任研修
12月17日　ＳＯＳネットワーク会議
1月16日　平成27年度第2回自殺対策に係る他分野合同研修会
1月27日　社協包括　圏域ケア会議
2月17日　認定調査員研修会
2月18日　愛仁園包括　圏域ケア会議　実践報告者1名
2月22日　ケアマネジメント支援会議（帯広市役所）

利用者の状況

（1）ケアプラン作成数

月	介護度別利用者数									
	要支援1	要支援2	支援合計	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要介護合計	総合計
4月	5	6	11	47	15	9	9	0	80	85.5
5月	4	6	10	46	16	10	8	0	80	85
6月	4	6	10	47	16	10	8	0	81	86
7月	5	7	12	48	17	11	8	0	84	90
8月	7	7	14	49	17	12	7	1	86	93
9月	7	7	14	54	17	12	8	1	92	99
10月	6	7	13	58	20	10	9	1	98	104.5
11月	5	9	14	58	20	11	9	1	99	106
12月	6	12	18	58	19	10	10	1	98	107
1月	6	13	19	57	19	10	7	2	95	104.5
2月	6	12	18	56	22	11	6	2	97	106
3月	6	11	17	58	25	15	6	3	108	116.5
合計	67	103	170	636	223	131	95	12	1098	1500.5

※要支援者は利用者数に2分の1を乗じた数を総合計へ計上しています。

（2）紹介元

月	協立地域医療連携	刀圭会グループ居宅・サービス事業所	西病院	包括	他事業所	他病院	家族	合計
4月	0	0	0	2	0	0	1	3
5月	0	1	0	0	0	0	0	1
6月	0	0	0	1	0	0	0	1
7月	0	1	0	3	0	0	0	4
8月	0	0	0	2	1	0	0	3
9月	0	0	0	3	0	1	0	4
10月	0	0	0	3	0	0	2	5
11月	0	0	0	3	0	0	0	3
12月	0	0	0	0	0	0	1	1
1月	0	0	0	3	0	0	1	4
2月	0	0	0	3	1	0	3	7
3月	0	0	0	1	6	0	1	8
合計	0	2	0	24	8	1	9	44

（3）年齢データ

区分	利用人数	年齢別利用人数							平均年齢
		～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	
男	38	1	3	7	6	6	9	6	81
女	69	1	3	6	11	18	17	13	82.5
計	107	2	6	13	17	24	26	19	82
比率%	100%	1.9	5.7	12.2	16	22.4	24.3	18	

（4）居宅サービス計画作成終了の理由と人数

区　　分	男	女	計
本人死亡の為	1	3	4
施設入所	4	2	6
入院、療養転院	3	2	5
他事業所	0	0	0
小規模多機能への移行	1	1	2
その他	0	0	0
計	9	8	17

［１０］ 平成２７年度　地域密着型介護老人福祉施設ななかまど　事業報告

（１）運営方針（目標）

一、施設サービス計画に基づき、介護、相談及び援助、社会生活上の便宜の供与その他の日常生活上の援助、機能訓練、健康管理及び療養上の支援を行い、地域や家庭との結び付きを重視しつつ、利用者がその有する能力に応じ自律した日常生活を営むことができるようにすることを目指す。施設サービス計画を元に個人個人にあった機能訓練、病状に合わせて支援を行いつつ、施設内の行事（夏祭り、敬老会、花火大会、屋上バーベキュー大会）・家族、町内参加型の行事（年忘会）、家族や地域の人たちとの交流を図った。食事・排せつなどの日々の関わりの中でケアマネジャーを中心に入居者の変化などに対し他職種協働による情報交換・共有を密に行えた。同年 10 月より発足した刀圭会地域包括ケア会議においてご利用者の密な情報共有と個々にあったサービスの斡旋や受入を加速させて隙間の無い、介護サービスの提供につながった。口腔マネジメントなどの個別ケアの取り組みにより入居者本人の有する能力の維持に努めた。

二. 可能な限り居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮する。　協立病院より派遣頂いている理学療法士の評価、助言をもとに機能訓練指導員による専門性の高い個別リハが実現された。

三. 少人数の明るく家庭的な雰囲気を重視し、利用者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるよう努める。利用者様が以前に暮らしていたような生活スタイルを重視することで精神的に安定されていた。また、吹き抜け部分から１Ｆ利用者の生活風景が見えるようなたたずまいが入居者の不安を取り除く効果を一層高めている。３月よりユニット便りを家族あてに送付して日々の生活風景をご家族に周知することで入居者・家族・職員の間で互いの理解が深まり家庭的な雰囲気ながらも、互いを尊重しあえるなじみの関係ができている。日々の生活の中で少しずつそれぞれの役割が出来てきている。

四. 病院、老健、ケアハウス、地域密着型特養、各種在宅サービスを要するグループの機動力を生かした切れ目のないサービス提供が実施され、地域根ざしたグループの存在価値を一層向上させるとともに、市町村、他法人とも綿密な連携を図るよう努める。地域との結び付きを重視したことで市、各居宅事業所などの連携することで実績向上につながっていた。町内会にも施設行事への参加を呼びかけ互いに交流を深めている。各行政機関、事業所等に対しては必要に応じ報告・連絡・相談を行い、綿密な連携を図るように努めた。

五. サービス提供にあたっては、懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対して入居生活上必要な事項について理解しやすいように説明を行うとともに、利用者の同意を得て実施するよう努める。ご利用者の主体を忘れずに家族に協力得ながら、各職種で分かりやすい言葉で

説明することで理解できた。入所時に家族との交流が図れる行事などを行うことが定期に出来ると更なる親密できると職員に話しやすくなると思われる。入居者・家族の思いや意向をふまえながら、必要に応じ各々専門職としての知識・経験をもとに理解しやすい言葉での説明、対応を基本とし入居者本位のサービス提供となるよう努めた。

（2）重点実施項目

1、地域貢献の視点

- **地域交流（温泉一般開放）**
  ：温泉の一般開放（日曜日/週）は地域の皆さんの利用（15～16 人/回）も多くみられている。
- **災害時等の緊急時における協力と連携**
  ：刀圭会グループ防災会議への地域代表者の参加

2、財務の視点

- **目標稼働98%を達成する**
  ：事業所のみの稼働率では、平均 97%（29 床に対して）と高い稼働率を維持できた。来年度は 95%以上を維持するとともに、限りなく 100%に近付けるよう、職員への数字の周知を継続して目的意識を共有する。
  ：空床時は速やかに空所ショート利用者を確保してベッドの稼働を空けない。
- 加算の算定
  ：看護体制加算Ⅱの算定ができる体制を整備。また、栄養ケアマネジメント（8 月より）の算定を視野にいれた人員確保が確定している。このことにより年間 100 万強の増収が見込まれる人員確保が行えた。
- 経費削減
  ：委託費（清掃、警備、洗濯）保守料（コピー代、システム保守料）の見直しにより年間 600 万程の経費削減できる契約内容へ変更ができた。

3、利用者の視点

- **利用者、家族との信頼と満足度の向上**
  ：家族参加型の行事の立案、ユニット便りの送付（毎月）により施設生活の見える化を行い、家族、職員、施設の想いの以心伝心が図られた。
- **状況に応じた柔軟かつ迅速な対応**
  ：空床型ショートステイの受け入れや、緊急ショートステイの受け入れなどを積極的に対応することが出来た。
- **口腔マネジメントに基づく口腔機能の維持、向上**
  ：歯科衛生士により口腔衛生に関するアセスメントやプラン作成が行われ、家族との相互理解の元、入居者本人が経口摂取を維持できる取り組みを行うことが出来た。

- **機能訓練による健康維持・増進を図る**
  ：セラピストによる専門的な評価、計画をもとに個別機能訓練士による質の高い機能訓練が実施する事ができた。

4、業務のプロセスの視点

- **各事業所間の連携・強化**
  ：共通利用者の情報交換を行うことで利用者に対するケア内容の事前確認や注意事項などの周知ができ、利用者のサービス利用時の不安軽減につなげることが出来た。
- **チームワークの構築**
  ：フロア会議だけではなく、Aipo7 などのＩＴ活用による情報交換、意見集約などで勤務者の少なさをカバーし、フロア全体で業務に取り組むことができた。
- **業務の効率化を図る**
  ：職員の気づきが増え、業務やケア内容をこまめに見直すことで無駄を省くことが出来た。
- **感染症対策の強化**
  ：床のハイター消毒、靴底のハイター消毒、手洗い・消毒の通年実施、季節に応じた感染症に対する注意喚起、吐物処理方法の周知徹底などと合わせ、職員一人一人の意識の向上により今年度はインフルエンザ、ノロウイルスの入居者の罹患はなかった。

5、学習と成長の視点

- **自己研鑽**
  ：職員一人一人が１年間の目標を立てて業務・ケアに携わることで目的を持った取り組みが出来た。
- **研修会（外部、内部）への参加、フィードバック**
  ：職員一人一人が施設内委員会主催研修やアメ帯主催研修、各業者による研修への参加をしており知識や技術を向上させるための努力をした。
- **キャリア段位制度の導入**
  ：厚労省が推奨するキャリア段位制度を導入して資格、経験、知識とそれぞれに合った評価、指導が行えた。今後は、職員の段位取得に向けて取り組みを加速していく。

6、人材と変革の視点

- **職員の資質向上と人材の育成**
  ：ユニットリーダーの資格保持者が増えたことで、ユニットケアの理解を職員一人一人に更に深めることができるようになった。
- **やりがいと誇りの持てる職場つくり**
  ：居室担当制により職員一人一人が責任を持って入居者のケアを考え、他職員に情報発信しチームケアの実施に取り組むことが出来た。
- **医療法人との連携強化**
  ：アメ帯の研修への参加やアメ帯委員会からの情報収集・交換を行うことが出来た。

（３）会議

① **職員全体会議（月１回）**　② **ケース検討会議（月１回）**
③ **各委員会会議（月１回）**　④ **運営推進会議（年６回）**
⑤ **入居優先度判定会議（年６回）**　⑥ **事業所会議（月１回）**
：各種会議を定期的に開催し職員間の情報交換・共有を行った。

（４）職員の研修

- 介護報酬改定、総合支援事業以降に関する研修
- 看取りに関する技術研修

- 地域医療構想に関する説明会
- 職員のメンタルヘルスに関する研修
- 人材育成の為のコミュニケーションの向上
- 社福経営に関するセミナー
- 事故防止の為の危険予測訓練
- 褥瘡予防に関する研修会
- 口腔ケアに関する研修会
- 褥瘡予防に関する研修
- アンガーマネジメント研修
- キャリア段位制度に関するアセッサー取得研修
- 感染予防研修
- 他施設研修
- 雇用管理責任者研修
- 認定調査員現認研修
- ケアマネ実務者研修
- 誤薬防止に関する研修
- リスクマネジメントに関する研修
- 感染予防に関する研修会
- 米国における介護施設の視察研修

2．入居者の状況

平成28年3月31日 現在

（1）人数・年齢

性　別	人　数	最高年齢	最低年齢	平均年齢
男	6	99歳	67歳	87.4歳
女	23	99歳	67歳	85.2歳
合　計	29名			86.3歳

（2）年齢層別人数

年齢／性別	男	女	計	構成比率
60～64	0	0	0名	0.0 %
65～69	1	1	2名	6.9 %
70～74	0	1	1名	3.4 %
75～79	0	3	3名	10.3 %
80～84	1	5	6名	20.7 %
85～89	1	5	6名	20.7 %
90～	3	8	11名	37.9 %
合計	6名	23名	29名	100.0 %

（3）入居期間人数

期間／性別	男	女	計	構成比率
6ヶ月未満	0	2	2名	6.9 %
6～1年未満	1	1	2名	6.9 %
1～2年未満	0	2	2名	6.9 %
2年以上～	5	18	23名	79.3 %
合計	6名	23名	29名	100.0 %
平均入居期間	12.7 ヶ月	11.2 ヶ月		

（4）介護度別人数

要介護度/性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合　計
男	0	1	3	2	1	7名
女	0	3	6	4	9	22名
合　計	0名	4名	9名	6名	10名	29名
構成比率	0.00%	13.79%	31.03%	20.69%	34.48%	平均介護度 3.76

（5）入居・退居の状況

①年度内入居者の人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男						1							1名
女			1						1		1		3名
計	0名	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名	1名	0名	1名	0名	4名

※入居者の内訳

・自宅　2名　・介護老人保健施設　2名

②年度内退居者の人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男		1				1							2名
女									1	1			2名
計	0名	1名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	1名	1名	0名	0名	4名

※退居者の内訳

・死亡　名　・医療機関　4名

（6）待機者の状況（H28.3.31現在）

○性別　介護度別

要介護度/性別	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合　計
男	5	4	10	14	6	39名
女	10	19	18	14	13	74名
合計	15名	23名	28名	28名	19名	113名

○平均介護度

男性	女性	平均
3.40	3.85	3.63

○地域別

西帯広・開西	広陽・若葉	西	川北	東	川西・大正	鉄南	南	合計
5	10	20	31	12	3	3	29	113名

○待機場所別

在宅	病院	老健	グループホーム	他施設	合計
46	20	35	7	5	113名

［１１］ 平成２７年度　小規模多機能型居宅介護　ななかまど　事業報告

（１）運営方針（目標）

一、　通いを中心として、要介護者の機能や希望に応じて、随時訪問や宿泊を組み合わせ、サービスを提供することにより、利用者の居宅における生活の継続を支援するよう努める。

新規利用者については、黒澤病院、厚生病院の退院患者をスムーズに受け入れる事で居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターとの連携・協力により当事業所の利用者として受け入れた。新規ご家族・本人様の希望を多く取り入れることで通い、泊まり訪問を柔軟に組み入れ、当事業所との信頼関係を構築し高い評価をいただけたのではと考える。次年度に向けさらににれの木小規模多機能をアピールしていきたい。

二.　帯広市、地域包括支援センター、帯広市の保健・医療・福祉サービスの提供主体との、密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

地域包括支援センターからの相談・依頼については、早急に対応しサービス担当者会議等で希望のケース利用者への利用に素早い連携でサービス提供に結びつけたと考える。今後においても積極的に帯広市、地域包括に働きかけていく。

（２）重点実施項目

1、地域貢献の視点

- **地域交流（町内会行事への参加、温泉一般開放等）**
- **災害時等の緊急時における協力と連携（避難場所や炊き出しの提供等）**
  - 地域交流については町内清掃、温泉の一般開放に協力し事故なく達成できた。
  - 災害はなかったため実施することはなかった。

2、財務の視点

- **目標稼働９５％を達成する**
  - 年度当初の低迷から目標達成率は 80%代と大幅な計画との相違が生じた。新規登録者と利用中止になる方の割合がほぼ同率であることが大きな要因となった。今年度の美外経験を徹底検証して、29 名の登録を早期に達成すると同時に利用待機者を常時２名以上確保できるよう関係機関との連携を図る。
  - 併設ショートステイの利用から多機能への移行を促進する。
- **経費削減**
  - レク物品等は利用者と手作りを行い経費削減に繋がった。
  - 施設全体での委託費、保守料の見直しを行った。

3、利用者の視点

- 利用者、家族との信頼と満足度の向上
- その人の生活状況に応じた柔軟なサービス提供かつ迅速な対応
- 在宅生活維持に向けた家族支援（レスパイト等）
- 第三者による評価をもとに運営推進委員、ご家族より助言、アドバイスを頂き、事業所の質を向上させることができた。

4、業務のプロセスの視点

- 各事業所間の連携・強化
- チームワークの構築
- 業務の効率化を図る
- 感染症対策の強化
  - 併設する特養待機者、ショート利用者の利用受入など事業所連携が成された。
  - 老健在宅復帰対象者の受入や老健への入所がシステマティックに行えた。
  - ワイズマンでの記録を取り入れることで業務の効率化も図れた。
  - 感染委員会の勉強会に出席することで基本的な知識を習得し感染を防ぐ意識が高まり、インフルエンザ・ノロウイルス等の蔓延には繋がらなかった。今後も利用者・職員の安全を第一に考え行動したい。

5、学習と成長の視点

- 自己研鑽
- 研修会（外部、内部）への参加、フィードバック
  - 他施設での実習など外部を意識した研修やキャリア段位制度の導入による個別の教育が行えた。

6、人材と変革の視点

- 職員の資質向上と人材の育成
- やりがいと誇りの持てる職場つくり
- 医療法人との連携強化
  - 上記項目でもあげたように勉強会の案内等医療法人から頂き、参加することで交流が増えた。また親睦会等でも医療法人と連携がとれた。

（3）会議

① 職員全体会議（月１回）　② ケース検討会議（月１回）
③ 各委員会会議（月１回）　④ 運営推進会議（年６回）
⑤ 事業所会議（月１回）

- 各種会議には積極的に参加し、情報交換ができた。

（4）職員の研修

- 介護報酬改定、総合支援事業以降に関する研修
- 看取りに関する技術研修
- 地域医療構想に関する説明会
- 職員のメンタルヘルスに関する研修
- 人材育成の為のコミュニケーションの向上
- 社福経営に関するセミナー
- 事故防止の為の危険予測訓練
- 褥瘡予防に関する研修会
- 口腔ケアに関する研修会
- 褥瘡予防に関する研修
- アンガーマネジメント研修
- キャリア段位制度に関するアセッサー取得研修

- 感染予防研修
- 他施設研修
- 雇用管理責任者研修
- 認定調査員現認研修
- ケアマネ実務者研修
- 誤薬防止に関する研修
- リスクマネジメントに関する研修
- 感染予防に関する研修会
- 米国における介護施設の視察研修

（1）利用登録・解除の状況

①登録者の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	男													0名
	女							2	4	4	4	3	2	19名
要支援2	男							1	1	1	1	1	1	6名
	女			1	1	1	2	3	3	3	3	3	4	24名
要介護1	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12名
	女	5	6	4	4	6	5	3	3	2	3	3	1	45名
要介護2	男					1	1			1	1	1		5名
	女	2	2	2	2	3	4	5	5	6	6	5	5	47名
要介護3	男					1	1	2	2	2	1	1	1	11名
	女	5	5	5	5	4	3	3	3	3	3	3	3	45名
要介護4	男				1	1	1	1	1	1				6名
	女	2	2	2	1	1	1				1	2	3	15名
要介護5	男													0名
	女	1	1	1	1	1		2	2	2	1	1	1	14名
計	男	1	1	1	2	4	4	5	5	6	4	4	3	40名
	女	15	16	15	14	16	15	18	20	20	21	20	19	209名
計		16名	17名	16名	16名	20名	19名	23名	25名	26名	25名	24名	22名	249名

②年度内新規利用登録者の人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	1			1	2		1		1		1		7名
女	3	1	2		3	2	4	2		2	1	1	21名
計	4名	1名	2名	1名	5名	2名	5名	2名	1名	2名	2名	1名	23名

③年度内登録解除者の人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男									2	1	1		4名
女		3	1	1	3	1			1	2	2		14名
計	0名	3名	1名	1名	3名	1名	0名	0名	3名	3名	3名	0名	18名

※登録解除者の内訳

・介護老人保健施設　2名、医療機関　12名、有料老人ホーム/サ高住　1名、介護老人福祉施設　3名

（2）年齢層別人数

年齢／性別	男	女	計	構成比率
60～69	0	1	1	4.5%
70～79	0	0	0	0.0%
80～89	1	11	12	54.5%
90～99	2	6	8	36.4%
100～	0	1	1	4.5%
合計	3	19	22	100.0%

（3）登録期間人数

期間／性別	男	女	計	構成比率
3ヶ月未満	0	2	2	9.1%
3～6ヶ月	2	5	7	31.8%
6～1年未満	1	6	7	31.8%
1以上	0	6	6	27.3%
合計	3	19	22	100.0%
平均利用日数	251.6日	307.2日	279.4日	

［１２］　平成２７年度ショートステイななかまど事業報告

（１）運営方針（目標）

一、要介護状態等になった利用者が可能な限りその居宅においてその有する能力に応じ自立した生活が営むことができるよう入浴、排泄、食事等の介護やその他の日常生活上の支援及び機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持並びに利用者の家族の身体的・精神的負担の軽減を図ることを努める。

：介護者の介護軽減や独居、高齢者世帯での生活に不安を抱えた方々の軽減を図り、安心して在宅が継続できるように支援を行った。また、利用中における体調不良や疾病の早期発見、生活状況を家族やケアマネなどに情報提供し、より良い在宅生活の継続に向けて支援を行った。今後は長期的に利用されている方に対して、今後の方向性についての支援が課題と考える。

二、事業の実施にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、利用者が継続的に総合的なサービスの提供に努めるものとする。

①空床状況のスムーズな情報提供による利用者の確保。

インターネットを利用した空床案内（ＨＰ上）を行い、「いつでも、誰でも、どんな時でも」ネット上でユーザーが確認できるシステムを構築。

②今後の課題

- 高い稼働率を維持する為、同日の入退所を利用した予約率（現在３ヶ月前予約）120%をキープできるよう調整を行う。
- 地域包括ケア会議（刀圭会グループ）でのベッドコントロールを行い、様々な相談、ケースに対して受け入れられる方法を個別に協議して、「当該地域の医療、介護、生活、福祉の要」としての役割を果たす。
- ベッドの空が無く利用困難な時は、アメニティ帯広及びにれの木ショートステイとのご利用を紹介するなどグループ内のサービス資源を最大限に活用できるよう連携を強化する。

（2）重点実施項目

1、地域貢献の視点

- **地域交流（施設行事への町内住民の参加、温泉一般開放等）**
  ：夏祭り、敬老会などの施設行事を地域住民、家族参加型の行事とする。
- **災害時等の緊急時における協力と連携（避難場所や炊き出しの提供等）**
  ：グループ防災会議に町内会代表も参加して頂き、地域と当グループが一体的な防災活動を行えるよう協議する。

2、財務の視点

- **目標稼働 3.5 人/日を達成する。**
  ：目標 3.5 人/日に対して 4.1 人/日と目標に達したが全体（4.0 人/日）に対しても 102%の稼働率でした。常に 120%の実績を目指し最低でも 100%を達成できるよう職種間の意識を統一する。
  ：定期利用者が月に 80%以上を占めているので安定的な利用者の確保が見込まれる。
- **空床型を積極的に活用する**
  （ベットコントロール、他事業所への情報提供、連絡調整）
  ：空床発生時には、同日に居宅支援事業所への空床案内を行うと同時にキャンセル待ちの利用者への利用確認を行う。

3、利用者の視点

- **利用者、家族との信頼と満足度の向上**
  ：①現場職員が担当者会議や利用契約、訪問調査に相談員と同席することで、利用者や家族、居宅ケアマネージャーと顔の見える関係が構築できるように努めた。
  ②施設と在宅のキーパーソンとして利用者や家族の立場に寄り添うことを大切にし、利用者が「安心できるなじみの場所」に出来るように心掛けた。
- **その人の生活状況に応じた柔軟なサービス提供かつ迅速な対応**
  ：利用者の送迎については、家族の希望が多かった祝祭日、土曜日の送迎を実施。他事業所にはないサービスであるため、新規利用者の獲得にもつながりご家族にも喜んでいただけた。

4、業務のプロセスの視点

- **各事業所間の連携・強化**
  ：状態変化があればすぐに報告を行うと共に、サービス担当者会議への出席を数多くし、連携を図るように努めた。

・チームワークの構築
：利用者一人ひとりの生活の流れに合った援助ができるように常に利用者の目線に立った援助に努め、職員間の連携の強化および意思統一を図りながら取り組んで行きたい。

・業務の効率化を図る
：介護ソフト（ワイズマン）やAipo7（グループウエア）を活用し、情報共有やコミュニケーションの効率化、ペーパーレスを図ることができた。

・感染症対策の強化
：ノロウィルス・疥癬・インフルエンザなど集団感染の予防をしっかり対応する事が出来た。今年度において、疑いのある方の利用はあったが、早期に対応し、集団発生には至らなかった。看護師と連携し、利用時に手洗い・うがいの実施を行い、疑わしい症状が見られた場合は迅速に隔離対応を行い、初期段階での予防を図っていくことが出来た。

5、学習と成長の視点
・自己研鑽
：研修会（外部、内部）参加し、各自自己研さんに努めた。また、研修伝達会を開催し、研修で得た知識や技術をフィードバックする機会を設けた。
・研修会（外部、内部）への参加、フィードバック
：外部研修は、十老協主催の相談員部会に参加して他施設の同職種の方方々と意見交換が行えた。

6、人材と変革の視点
・職員の資質向上と人材の育成
・やりがいと誇りの持てる職場つくり
・地域包括ケア会議の充実
：グループ内のあらゆる資源を最大限に活用できるよう担当者同士の情報交換や利用方法の検討を推進する。

（3）会議
① 職員全体会議（月１回）　② 各委員会会議（月１回）

（4）職員の研修
介護報酬改定、総合支援事業以降に関する研修
看取りに関する技術研修

地域医療構想に関する説明会
職員のメンタルヘルスに関する研修
人材育成の為のコミュニケーションの向上
社福経営に関するセミナー
事故防止の為の危険予測訓練
褥瘡予防に関する研修会
口腔ケアに関する研修会
褥瘡予防に関する研修
アンガーマネジメント研修
キャリア段位制度に関するアセッサー取得研修
感染予防研修
他施設研修
雇用管理責任者研修
認定調査員現認研修
ケアマネ研修
誤薬防止に関する研修
リスクマネジメントに関する研修
感染予防に関する研修会
米国における介護施設の視察

2．利用者の状況

平成28年3月31日 現在

（1）男女別利用者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	4	4	4	4	3	2	3	1	3	2	0	3	33名
女	12	14	15	17	14	13	14	15	16	18	15	14	177名
計	16名	18名	19名	21名	17名	15名	17名	16名	19名	20名	15名	17名	210名

（2）介護度別利用者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0名
支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0名
介護1	3	7	6	6	5	4	6	4	5	3	4	7	60名
介護2	9	6	7	9	9	8	9	7	7	10	5	5	91名
介護3	2	2	2	3	1	1	1	3	5	4	3	2	29名
介護4	2	3	3	3	2	2	1	1	2	2	3	2	26名
介護5	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	4名
計	16名	18名	19名	21名	17名	15名	17名	16名	19名	20名	15名	17名	210名
平均介護度	2.19	2.06	2.26	2.14	2.00	2.07	1.82	2.25	2.21	2.40	2.33	2.12	2.16

（3）平均利用者数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
※延べ人数	男	18	21	20	17	13	11	30	9	14	6	0	8	167名
	女	96	126	114	102	98	111	97	103	132	124	107	123	1333名
	計	114	147	134	119	111	122	127	112	146	130	107	131	1500名
1日平均		3.80	4.74	4.47	3.84	3.58	4.07	4.10	3.73	4.71	4.19	3.69	4.23	4.10名
稼働率		95.0%	118.5%	111.7%	96.0%	89.5%	101.7%	102.4%	93.3%	117.7%	104.8%	95.5%	105.6%	102.6%

※延べ人数は特養入院者の空床利用も含んでいます。